

S O K E N D A I

人類文化研究
国際日本研究
日本歴史研究
日本文学研究
日本語言語科学
情報学
統計科学
素粒子原子核
加速器科学
天文学
核融合科学
宇宙科学
分子科学
物質構造科学
総合地球環境学
極域科学
基礎生物学
生理科学
遺伝学
統合進化科学

CONTENTS

概 要

学長あいさつ	4
総研大の特徴	5
教育研究組織	6
組 織	7
総合研究大学院大学に参加する 大学共同利用機関	8
沿 革	10

先 端 学 術 院

人類文化研究コース	12
国際日本研究コース	13
日本歴史研究コース	14
日本文学研究コース	15
日本語言語科学コース	16
情報学コース	17
統計科学コース	18
素粒子原子核コース	19
加速器科学コース	20
天文科学コース	21
核融合科学コース	22
宇宙科学コース	23
分子科学コース	24
物質構造科学コース	25
総合地球環境学コース	26
極域科学コース	27
基礎生物学コース	28
生理科学コース	29
遺伝学コース	30
統合進化科学コース	31



教育研究活動

総研大の教育・研究支援	32
社会へ向けた取組	34
統合進化科学研究センター	36
教育企画開発センター	36
学術情報基盤センター	37

DATA

データブック	38
アクセスマップ	47

S O K E N D A I



学長あいさつ

Message from the President

概要

総合研究大学院大学 SOKENDAI は、「大学共同利用機関」と呼ばれる国立研究機関を教育の場として、次世代を担う博士人材の育成を目的とする大学です。1988年に国内で初めての国立大学院大学として開設されて以来、基礎学術の様々な分野に約2,500名の博士を送り出してきました。

全国に19ある大学共同利用機関は、大規模な実験施設や先端的な研究設備、貴重な研究資料を備え、第一線の研究者集団を擁しています。国内外の多くの研究者がその研究設備や資料を共同で利用し、機関の研究者と多彩な共同研究を展開しており、大学共同利用機関は人文学から高エネルギー物理学に至る広範な学術分野を牽引する中核拠点となっています。SOKENDAIの大きな特色は、そのような世界トップクラスの基礎研究が行われている機関を大学院教育の場としていることです。

SOKENDAIのもう一つの特色は、そのユニークな教育体制にあります。国内の殆どの大学では、例えば「人文学研究科日本学専攻」や「理学研究科物理学専攻」と言ったように、学問分野ごとに教育組織が分かれています。一方、SOKENDAIでは、「先端学術院」と呼ばれるひとつの教育組織に素粒子・物質・生命・宇宙・情報・歴史・文化の広範な学術領域をカバーする20のコースが並置されています。先端学術院の教育課程は、学生自らが専門と定めた学問分野の基本的な知識と教養を修得しながら、その専門に囚われることなく、分野を跨いで主体的に学修や研究活動を行えるようにデザインされています。本学のディプロマ・ポリシーに掲げた「専門力」「独創性」「学際性」「国際力」「倫理性」の5つの力量は、いかなる課題に直面しても、自立した研究者として専門を越えて立ち向かうことができる博士人材を念頭に置いたものです。

今、国際社会は様々な課題に直面しています。気候変動と環境問題、貧困と格差、政治的な対立や紛争などが嘗てない程に社会を脅かしつつあります。爆発的に普及する人工知能などのテクノロジーに社会がどのように向き合っていくのかも大きな課題です。それこそ、10年後に人類社会がどうなっているか、その姿を想像することさえ困難な状況と言えます。そんな先の見えにくい時代だからこそ、社会はその未来を託すことのできる人材を必要としています。大学は学問の府としてその要請に応えねばなりません。

SOKENDAIは、長期的な視点に立って真に人類社会に資する学術のあり方を見据え、社会の知的基盤を支える学術の継承・発展や高度な研究開発の担い手となり、新たな知を生み出すことができる博士人材の育成を目指して、広く社会に貢献していく所存です。

2025年4月1日

総合研究大学院大学長

永田 敬



ながた たかし

理学博士

1982年、東京大学大学院理学系研究科博士課程(化学専門課程)修了。

東京大学理学部助手・講師・助教授、東京大学教養学部助教授、分子科学研究所助教授、東京大学大学院総合文化研究科教授、東京大学副学長、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構研究開発部教授・主幹を歴任。

2017年より総合研究大学院大学理事・副学長を経て、2023年4月より現職。

創設の趣旨

総合研究大学院大学は、大学共同利用機関等との緊密な連携及び協力の下に、世界最高水準の国際的な大学院大学として学術の理論及び応用を教育研究して、文化の創造と発展に貢献することを理念に、1988年に我が国最初の国立大学院大学として創設されました。

この理念に基づき基礎学術分野において国際的に通用する高度の研究的資質を持つ広い視野を備えた研究者の育成を目的とし、学融合により従来の学問分野の枠を越えた国際的な学術研究の推進並びに学際的で先導的な学問分野の開拓を目指します。

大学共同利用機関等について

大学共同利用機関等の研究機関（基盤機関）は、当該分野の研究者コミュニティの要望をふまえて設置された共同利用・共同研究の中核拠点として、個々の大学では整備できない大規模な施設・設備、大量のデータや貴重な資料等の研究資源を全国の大学の研究者に提供するとともに、国内外の研究者との多彩な共同研究を通じて、我が国の先端学術を牽引する研究拠点の役割を担っています。

総研大は、そのような基盤機関の優れた研究環境を教育の場として、各研究分野の豊富な研究者集団を教授陣とし、高度な専門教育と研究指導を行っています。

概

要

総研大の特徴

総研大では、先端学術院のもと、基盤機関に支えられた『20コース』が設置されています。これにより、学問の垣根を越え、基盤機関の多彩な教育リソースを全学で柔軟に提供できる教育環境を提供し、『5つの力量』に裏付けられた、『高い専門性・広い視野・国際通用性』を備えた「自立した研究者」を育成します。

5つの力量

専門力

自らが専門とする学術領域に蓄積された知見と方法論を修得し、それらを応用して高度な研究を推進することができる。

独創性

研究を通して事象を深く理解し、自由な着想に基づいて未踏の課題に挑戦し、新たな知的価値を生み出すことができる。

学際性

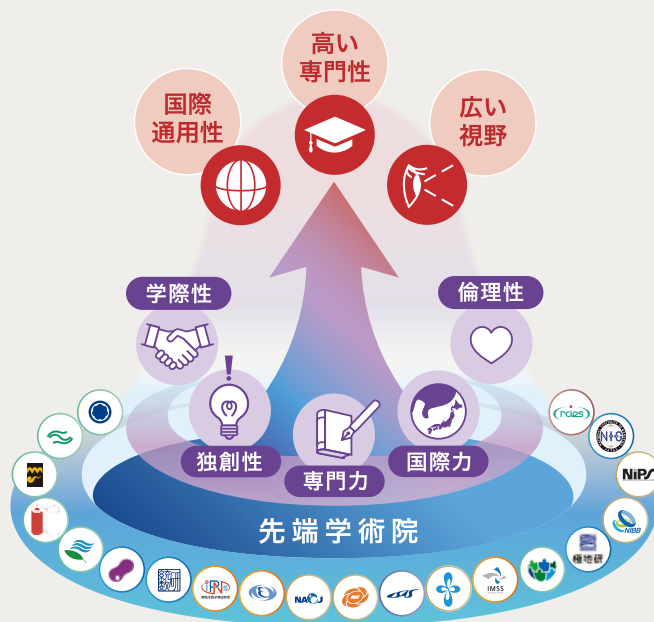
自らの専門性に立脚しつつ、学際的な視点から周辺領域の課題に取り組み、幅広い学術の進展に資することができる。

国際力

国・地域・言語・文化・性別・宗教などに捉われない理解と協働に基づき、高い普遍性をもつ学術成果を発信することができる。

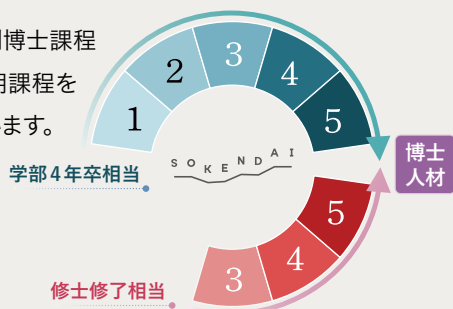
倫理性

自らが行う学術研究の社会的な意義や位置付けを認識し、研究者としての倫理観と責任感をもって行動することができる。



教育課程

5年一貫制博士課程と博士後期課程を併設しています。



詳細はこちらのWEB サイトをご覧ください

充実した学生支援

経済的支援

リサーチアシスタント制度や授業料の免除制度、SOKENDAI 特別研究員制度により、優秀な学生の研究活動を経済的にサポートします。

研究派遣支援

SOKENDAI 研究派遣プログラムや国際共同学位プログラムにより、国内外の長期共同研究等に取り組む学生をサポートします。



<https://www.soken.ac.jp/features/>

教育研究組織

Research and Education System

本学は、大学院の研究科に相当する教育研究上の基本組織として、先端学術院を置いています。先端学術院には、4つの大学共同利用機関法人及び国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構が設置する研究所等の研究環境を教育

の場とした、多彩な専門分野を持つ20コースが展開しています。また、附属図書館、統合進化科学研究センター、教育企画開発センター及び学術情報基盤センターを設置しています。



組織

Organization

2025年4月1日現在

概要



役職員

学長
理事(経営企画・財務・教育)
理事(総務・情報基盤・学生支援)
監事(業務)
監事(財務)

副学長
副学長
執行役(研究・地域連携)
執行役(経営企画)
学長補佐(経営企画)

先端学術院

先端学術院長
人類文化研究コース長
国際日本研究コース長
日本歴史研究コース長
日本文学研究コース長
日本語言語科学コース長
情報学コース長
統計科学コース長
素粒子原子核コース長
加速器科学コース長
天文科学コース長
核融合科学コース長
宇宙科学コース長
分子科学コース長
物質構造科学コース長
総合地球環境学コース長
極域科学コース長
基礎生物学コース長
生理科学コース長
遺伝学コース長
統合進化科学コース長

附属図書館

館長
副館長

統合進化科学研究センター

センター長

教育企画開発センター

センター長

学術情報基盤センター

センター長

事務局

事務局長
総合企画課長
総務課長
財務課長
学務課長

永田 敬
山本 智
久留島典子
久堀 徹
田中 輝彦
(以上、法人役員)
山本 智
久留島典子
蟻川謙太郎
藤澤 洋徳
道園真一郎

榊原 悟
三尾 稔
榎本 涉
坂本 稔
西村慎太郎
石黒 圭
武田 英明
吉本 敦
原 隆宣
三浦 孝子
関井 隆
榊原 悟
山田 亨
飯野 亮太
熊井 玲児
近藤 康久
平譯 享
新美 輝幸
古瀬 幹夫
齋藤 都暁
沓掛 展之

久留島典子
柳生 修二

印南 秀樹

山本 智

久留島典子

久留島典子
柳生 修二

印南 秀樹

山本 智

久留島典子

佐藤 昭博
望月 毅
浅田 慶美
八木雄一郎
中島 直也

教育研究評議会

学長
理事(経営企画・財務・教育)・副学長
理事(総務・情報基盤・学生支援)・副学長
先端学術院長・核融合科学コース長
人類文化研究コース長
国際日本研究コース長
日本歴史研究コース長
日本文学研究コース長
日本語言語科学コース長
情報学コース長
統計科学コース長
素粒子原子核コース長
加速器科学コース長
天文科学コース長
宇宙科学コース長
分子科学コース長
物質構造科学コース長
総合地球環境学コース長
極域科学コース長
基礎生物学コース長
生理科学コース長
遺伝学コース長
統合進化科学コース長

永田 敬
山本 智
久留島典子
榊原 悟
三尾 稔
榎本 涉
坂本 稔
西村慎太郎
石黒 圭
武田 英明
吉本 敦
原 隆宣
三浦 孝子
関井 隆
山田 亨
飯野 亮太
熊井 玲児
近藤 康久
平譯 享
新美 輝幸
古瀬 幹夫
齋藤 都暁
沓掛 展之

経営協議会

学長
理事(経営企画・財務・教育)・副学長
理事(総務・情報基盤・学生支援)・副学長
日本文学研究コース 教授 人間文化研究機構国文学研究資料館 館長
分子科学コース 教授 自然科学研究機構分子科学研究所 所長
素粒子原子核コース 教授 高エネルギー加速器研究機構素粒子原子核研究所 所長
遺伝学コース 教授 情報・システム研究機構国立遺伝学研究所 所長
大学共同利用機関法人高エネルギー加速器研究機構 機構長
株式会社ゆうちょ銀行 社外取締役
叡啓大学 学長
花園大学 学長
甲南大学文学部 教授
大学共同利用機関法人自然科学研究機構 機構長
大学共同利用機関法人情報・システム研究機構 機構長
大学共同利用機関法人人間文化研究機構 機構長
三菱地所株式会社 特別顧問
国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所 所長
合同会社RiseWave 啓 代表
公立大学法人秋田県立大学 理事長兼学長
公立大学法人国際教養大学 理事長兼学長
国立研究開発法人海洋研究開発機構 理事長

永田 敬
山本 智
久留島典子
渡部 泰明
渡辺 芳人
齊藤 直人
近藤 滋
浅井 祥仁
天野 玲子
有信 陸弘
磯田 文雄
井野瀬久美恵
川合 眞紀
喜連川 優
木部 暢子
木村 恵司
藤本 正樹
関根 千津
福田 裕穂
モンテ・カセム
大和 裕幸

総合研究大学院大学に参加する大学共同利用機関

概要

国立大学法人 総合研究大学院大学本部 ①

教育企画開発センター
学術情報基盤センター・附属図書館
〒240-0193
神奈川県三浦郡葉山町 湘南国際村
電話 046 (858) 1500 (代表)
<https://www.soken.ac.jp/>

 **統合進化科学研究センター**
統合進化科学コース
電話 046 (858) 1577 (コース担当)
<https://rcies.soken.ac.jp>

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国立民族学博物館 ②

人類文化研究コース
〒565-8511
大阪府吹田市千里万博公園 10-1
電話 06 (6876) 2151 (代表)
電話 06 (6878) 8236 (コース担当)
<https://www.minpaku.ac.jp/>

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国際日本文化研究センター ③

国際日本研究コース
〒610-1192
京都府京都市西京区御陵大枝山町 3-2
電話 075 (335) 2222 (代表)
電話 075 (335) 2052 (コース担当)
<https://www.nichibun.ac.jp/>

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国立歴史民俗博物館 ④

日本歴史研究コース
〒285-8502 千葉県佐倉市城内町 117
電話 043 (486) 0123 (代表)
電話 043 (486) 4361 (コース担当)
<https://www.rekihaku.ac.jp/>

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国文学研究資料館 ⑤

日本文学研究コース
〒190-0014 東京都立川市緑町 10-3
電話 050 (5533) 2900 (代表)
電話 050 (5533) 2915 (コース担当)
<https://www.nijl.ac.jp/>

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国立国語研究所 ⑥

日本語言語科学コース
〒190-8561 東京都立川市緑町 10-2
電話 0570 (08) 8595 (ナビダイヤル)
042 (540) 4314 (コース担当)
<https://www.ninjal.ac.jp/>

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 総合地球環境学研究所 ⑦

総合地球環境学コース
〒603-8047
京都府京都市上賀茂本山 457 番地 4
電話 075 (707) 2100 (代表)
電話 075 (707) 2148 (コース担当)
<https://www.chikyu.ac.jp/>

大学共同利用機関法人 自然科学研究機構 分子科学研究所 ⑧

分子科学コース
〒444-8585
愛知県岡崎市明大寺町字西郷中 38
電話 0564 (55) 7000 (代表)
電話 0564 (55) 7139 (コース担当)
<https://www.ims.ac.jp/>

大学共同利用機関法人 自然科学研究機構 基礎生物学研究所 ⑨

基礎生物学コース
〒444-8585
愛知県岡崎市明大寺町字西郷中 38
電話 0564 (55) 7000 (代表)
電話 0564 (55) 7139 (コース担当)
<https://www.nibb.ac.jp/>

大学共同利用機関法人 自然科学研究機構 生理学研究所 ⑩

生理科学コース
〒444-8585
愛知県岡崎市明大寺町字西郷中 38
電話 0564 (55) 7000 (代表)
電話 0564 (55) 7139 (コース担当)
<https://www.nips.ac.jp/>

大学共同利用機関法人 自然科学研究機構 国立天文台 ⑪

天文学コース
〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1
電話 0422 (34) 3600 (代表)
電話 0422 (34) 3659 (コース担当)
<https://www.nao.ac.jp/>

国立天文台 水沢VLBI観測所 ⑫

〒023-0861 岩手県奥州市水沢星が丘町 2-12
電話 0197 (22) 7111 (代表)

国立天文台 野辺山宇宙電波観測所 ⑬

〒384-1305 長野県南佐久郡南牧村野辺山 462-2
電話 0267 (98) 4300 (代表)

国立天文台 ハワイ観測所 ⑭

650 North A'ohoku Place, Hilo, Hawaii
96720 U.S.A.
電話 1-808-934-7788 (代表)

国立天文台 チリ観測所 ⑮

Los Abedules 3085, Oficina 701, Vitacura,
Santiago, Chile
電話 56-2-2656-9253 (代表)

大学共同利用機関法人 自然科学研究機構 核融合科学研究所 ⑯

核融合科学コース
〒509-5292 岐阜県土岐市下石町 322-6
電話 0572 (58) 2222 (代表)
電話 0572 (58) 2042 (コース担当)
<https://www.nifs.ac.jp/>

国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究所 ⑰

宇宙科学コース
〒252-5210 神奈川県相模原市中央区由野台 3-1-1
電話 042 (759) 8012 (コース担当)
<https://www.isas.jaxa.jp/>

大学共同利用機関法人 ⑱ 高エネルギー加速器研究機構 (つくばキャンパス)

 **加速器研究施設・共通基盤研究施設 加速器科学コース**
<https://www2.kek.jp/accl/>
<https://www2.kek.jp/ar/>

 **物質構造科学研究所 物質構造科学コース**
<https://www2.kek.jp/imss/>

 **素粒子原子核研究所 素粒子原子核コース**
<https://soken-pnp.kek.jp/>

〒305-0801 茨城県つくば市大徳 1-1
電話 029 (864) 1171 (代表)
電話 029 (864) 5128 (コース担当)
<http://www.kek.jp/>

東海キャンパス ⑲

〒319-1106 茨城県那珂郡東海村大字白方 203-1

大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 統計数理研究所 ⑳

統計科学コース
〒190-8562 東京都立川市緑町 10-3
電話 050 (5533) 8500 (代表) (コース担当)
<https://www.ism.ac.jp/>

大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 国立極地研究所 ㉑

極域科学コース
〒190-8518 東京都立川市緑町 10-3
電話 042 (512) 0608 (代表)
電話 042 (512) 0612 (コース担当)
<https://www.nipr.ac.jp/>

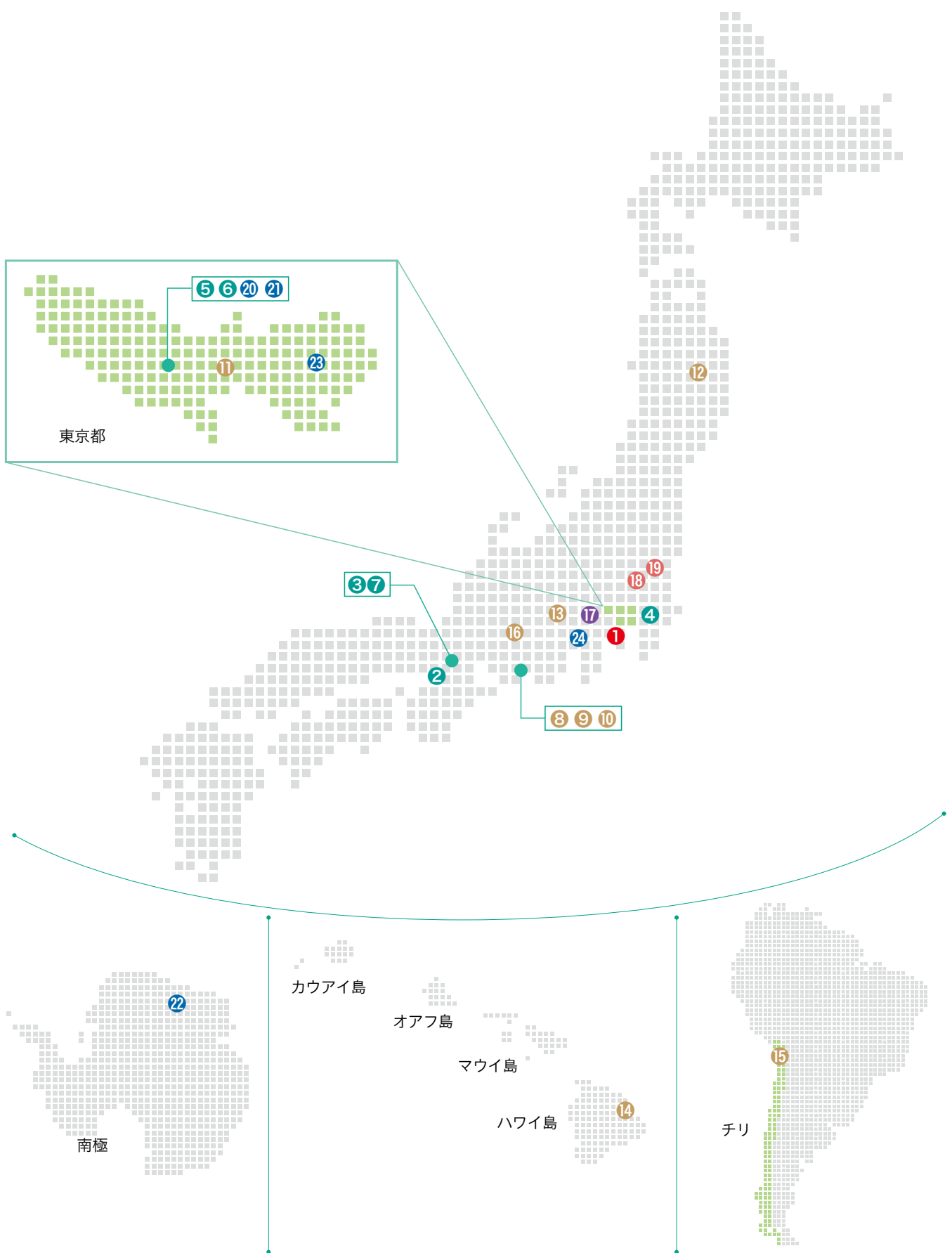
南極昭和基地 ㉒

大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 国立情報学研究所 ㉓

情報学コース
〒101-8430 東京都千代田区一ツ橋 2-1-2
学術総合センター
電話 03 (4212) 2108 (コース担当)
<https://www.nii.ac.jp/>

大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 国立遺伝学研究所 ㉔

遺伝学コース
〒411-8540 静岡県三島市谷田 1111
電話 055 (981) 6707 (代表)
電話 055 (981) 6720 (コース担当)
<https://www.nig.ac.jp/>



(C) NIPR



(C) NAOJ



(C) NAOJ

国立大学共同利用機関所長懇談会が「国立大学共同利用機関における大学院の設置について」を要望

国立大学共同利用機関所長懇談会が「大学院問題に関するワーキング・グループ」での検討結果に基づき「総合研究大学院大学の基本構想について」を取りまとめ

岡崎国立共同研究機構に総合研究大学院創設準備調査室及び同創設準備調査委員会を設置

総合研究大学院創設準備調査委員会が「総合研究大学院の基本構想」を取りまとめ

岡崎国立共同研究機構に総合研究大学院創設準備室及び同創設準備委員会を設置

総合研究大学院創設準備委員会が「総合研究大学院大学（仮称）の創設準備について—中間まとめ—」を取りまとめ

岡崎国立共同研究機構に総合研究大学院大学創設準備室及び同創設準備委員会を設置

本学の設置を規定した「国立学校設置法の一部を改正する法律（昭和 63 年法律第 67 号）」公布、施行

総合研究大学院大学創設準備委員会が「総合研究大学院大学の創設準備について」を取りまとめ

総合研究大学院大学開学

本部は東京工業大学（現 東京科学大学）長津田キャンパス内に設置

数物科学研究科	生命科学研究科
・統計科学専攻	・遺伝学専攻
・加速器科学専攻	・分子生物機構論専攻
・放射光科学専攻	・生理科学専攻
・構造分子科学専攻	
・機能分子科学専攻	（学生受入は平成元年 4 月）

初代学長に長倉三郎（理学博士）就任

文化科学研究科（地域文化学専攻、比較文化学専攻）を設置
3 研究科学生受入

教育研究交流センター設置

文化科学研究科に国際日本研究専攻、数物科学研究科に天文科学専攻及び核融合科学専攻設置、学生受入

数物科学研究科に極域科学専攻設置、学生受入

神奈川県の大井町により、三浦郡葉山町に本部用地（27,000㎡）を
株三井不動産から寄附により取得

葉山キャンパスにおいて本部共通棟（4,205 ㎡）着工

教育研究情報資料センター設置

大学本部は葉山キャンパスに移転、本部共通棟 竣工

2 代学長に廣田榮治（理学博士）就任

先導科学研究科（生命体科学専攻）を設置
（学生受入は平成 11 年 4 月）

先導科学研究科に光科学専攻設置（学生受入は平成 11 年 4 月）
数物科学研究科放射光科学専攻を物質構造科学専攻に名称変更

葉山キャンパスにおいて先導科学研究科棟
（現・統合進化科学研究センター棟）（3,060㎡）着工

文化科学研究科に日本歴史研究専攻、数物科学研究科に
素粒子原子核専攻設置・学生受入、先導科学研究科学生受入

先導科学研究科棟（現・統合進化科学研究センター棟）竣工

1982（昭和 57）年 6 月

1986（昭和 61）年 4 月

1987（昭和 62）年 3 月

5 月

7 月

1988（昭和 63）年 4 月

5 月

9 月

10 月



総合研究大学院大学 開学

東京工業大学（現 東京科学大学）長津田キャンパス
に間借りした部屋に総研大の看板をかける
長倉三郎初代学長。

1988. 10. 1

1989（平成元）年 4 月

1991（平成 3）年 4 月

1992（平成 4）年 4 月

1993（平成 5）年 4 月

1994（平成 6）年 2 月

3 月

6 月

1995（平成 7）年 2 月

4 月

1997（平成 9）年 4 月

1998（平成 10）年 4 月

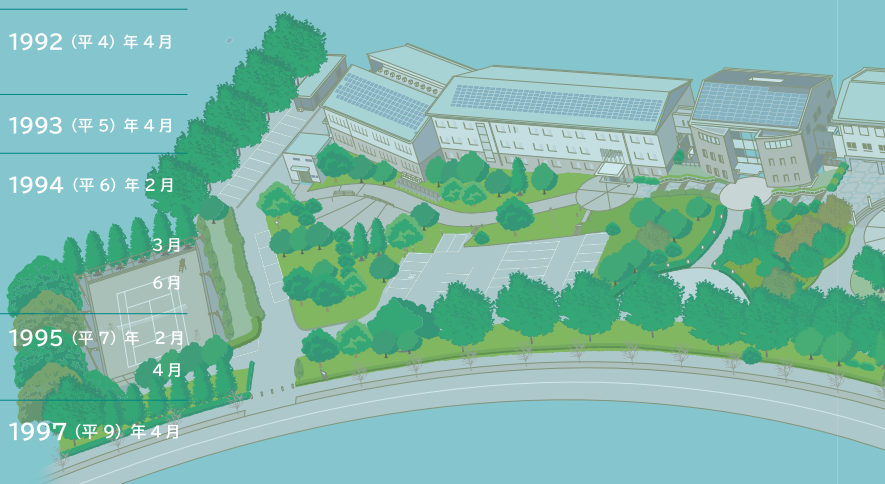
9 月

1999（平成 11）年 4 月

6 月

沿革

1982—

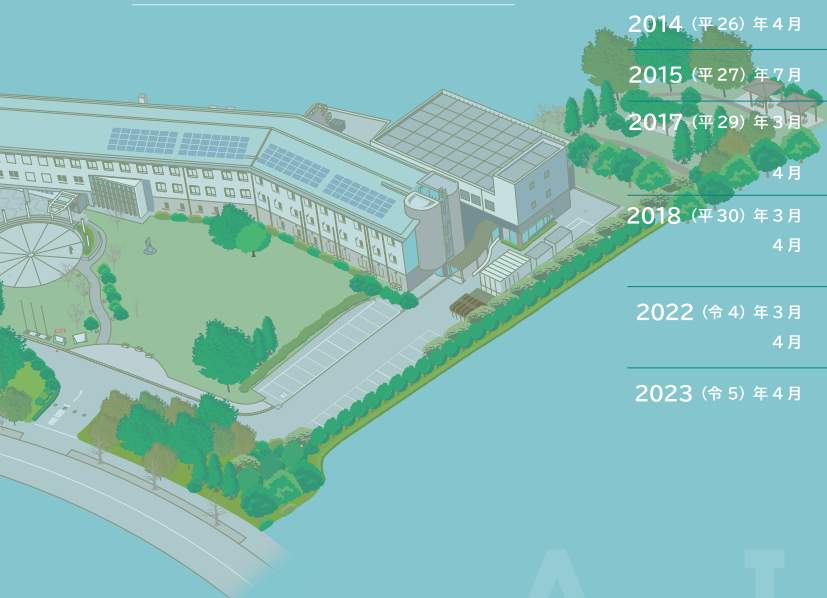


— History —

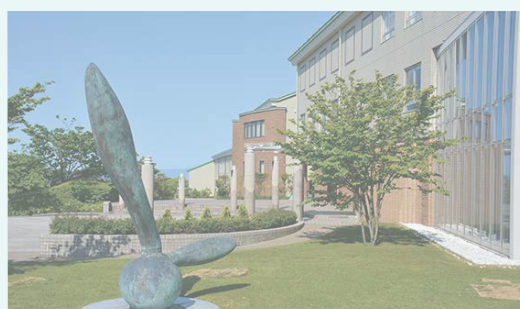
— 2025

歴代学長

初代	長倉 三郎（理学博士） 1988年10月～1995年3月
第2代	廣田 榮治（理学博士） 1995年4月～2001年3月
第3代	小平 桂一（理学博士） 2001年4月～2008年3月
第4代	高畑 尚之（理学博士） 2008年4月～2014年3月
第5代	岡田 泰伸（医学博士） 2014年4月～2017年3月
第6代	長谷川 真理子（理学博士） 2017年4月～2023年3月
第7代	永田 敬（理学博士） 2023年4月～現在



2001（平13）年4月 7月	3代学長に小平桂一（理学博士）就任 文化科学研究科にメディア社会文化専攻設置、学生受入 葉山キャンパスにおいて図書館棟（1,427 m ² ）着工
2002（平14）年2月 4月	図書館棟竣工 数物科学研究科に情報学専攻設置、学生受入
2003（平15）年4月 10月	文化科学研究科に日本文学研究専攻、数物科学研究科に宇宙科学専攻設置、学生受入 「国立大学法人法（2003年法律第112号）」公布、施行
2004（平16）年4月	国立大学法人総合研究大学院大学発足 学長に小平桂一（理学博士）就任 数物科学研究科を物理科学研究科（構造分子科学専攻、機能分子科学専攻、天文科学専攻、核融合科学専攻、宇宙科学専攻）、高エネルギー加速器科学研究科（加速器科学専攻、物質構造科学専攻、素粒子原子核専攻）、複合科学研究科（統計科学専攻、極域科学専攻、情報学専攻）の3研究科に改組、数物科学研究科を廃止 生命科学研究科を博士後期課程から5年一貫制博士課程に改組、学生受入 教育研究交流センター及び教育研究情報資料センターを統合し、葉山高等研究センターに改組
2005（平17）年4月	生命科学研究科分子生物機構論専攻を基礎生物学専攻に名称変更
2006（平18）年4月	物理科学研究科、高エネルギー加速器科学研究科、複合科学研究科を博士後期課程から5年一貫制博士課程に改組、学生受入
2007（平19）年4月	先導科学研究科の生命体科学専攻、光科学専攻（博士後期課程のみ）、生命共生体進化学専攻（5年一貫制博士課程）に改組、学生受入
2008（平20）年4月	4代学長に高畑尚之（理学博士）就任
2009（平21）年4月	メディア社会文化専攻の学生募集停止
2010（平22）年3月 4月	葉山キャンパスにおいて学融合推進センター棟（現・共通棟別館）（1,033 m ² ）着工 葉山高等研究センターを学融合推進センターに名称変更
2011（平23）年1月	学融合推進センター棟（現・共通棟別館）竣工
2013（平25）年4月	情報基盤センターを設置
2014（平26）年4月	5代学長に岡田泰伸（医学博士）就任
2015（平27）年7月	情報基盤センター及び附属図書館を統合し、学術情報基盤センターを設置
2017（平29）年3月 4月	メディア社会文化専攻を廃止 （専攻設置期間：2001年4月1日～2017年3月31日） 6代学長に長谷川真理子（理学博士）就任
2018（平30）年3月 4月	教育開発センターを設置 学融合推進センターを廃止 東京ブランチを設置（東京都港区）
2022（令4）年3月 4月	東京ブランチを廃止 統合進化科学研究センター設置
2023（令5）年4月	7代学長に永田敬（理学博士）就任 先端学術先端学術専攻を設置、学生受入 教育開発センターを教育企画開発センターに改組 文化科学研究科、物理科学研究科、高エネルギー加速器科学研究科、複合科学研究科、生命科学研究科、先導科学研究科の学生募集停止



人類文化研究 コース

Anthropological Studies

国立民族学博物館

National Museum of Ethnology

人間文化研究機構

National Institutes for the Humanities

教育課程 博士後期課程

学 位 博士（文学）・博士（学術）



コース長

三尾 稔

本コースの特徴は、調査対象とする地域やテーマに関わらず、フィールドワークに基づいた民族誌的な記述の博士論文を作成することです。文化に関して幅広い関心をもつジェネラリストで、かつある地域やテーマのスペシャリストでもあることを目指してほしいと思います。そのために講義やゼミのみならず、博物館がもつ資料や多様な研究プロジェクト、研究集会、展示、講演会、公演会、映画会などを活用していただけます。

人類文化研究コースは、国立民族学博物館が基盤機関となり、先史時代から現代まで人類が世界各地で形成してきた多様な文化に関して学びます。文化人類学・民族学とその関連分野の視点に立ち、特定の文化を記述分析する民族誌学的研究や、特定の観点から文化を比較する通文化的研究を行います。学生は、フィールド調査で得たデータ、国立民族学博物

館が所蔵する標本、映像・音響、文献資料等を活用しながら研究し、博士論文の完成を目指します。

本コースは、修士の学位を取得した学生、およびそれと同等以上の学力があると認めた学生を受け入れる博士後期課程のみから成り、コースに所属する学生は大阪府吹田市に所在する人間文化研究機構国立民族学博物館において学修・研究活動を行います。



蓮田で除草作業を行う労働者
(中国湖南省 2024年／劉丹 撮影)



活発に議論する学生たち



女性タラン(クニ・アスモロワティ Kenik Asmorowati 氏)による
ワヤン・クリの上演
(インドネシア中部ジャワ州スコバルジョ県 2024年／岸 美咲 撮影)

修了生
の
進路

●大学・研究所における研究者、大学等高等教育機関において文化人類学等の教育・研究に携わる教員、博物館等における研究者

〔これまでの修了生就職先〕

大阪大学、立命館大学、東京外国語大学ほか



国立民族学博物館

〒565-8511

大阪府吹田市千里万博公園10-1

<https://www.minpaku.ac.jp/>

国際日本研究 コース

Japanese Studies

国際日本文化研究センター

International Research Center for Japanese Studies

人間文化研究機構

National Institutes for the Humanities

教育課程 博士後期課程

学 位 博士（学術）



コース長

榎本 渉

本コースに入学される皆さんは、指導教員のみならず、複数の教員からの指導のもとで、広い視野に立った研究能力を身に付けていくことが出来ます。各教員は専門分野のエキスパートでありながら、様々な研究分野を横断的に扱う能力を兼ね備えているからです。このような恵まれた国際的かつ学際的環境のもと、将来的に国内外の学会で活躍する研究者を育てることが本コースの使命と考えます。グローバルな視点に立った独創的な研究を志す方を歓迎します。

先端
学術
院

国際日本研究コースは、人文科学・社会科学・自然科学にわたる国際的・学際的な日本研究(Japanese Studies)をすすめるために、国際的な視点から日本文化に関する教育研究を行うとともに、様々な研究分野を横断的に扱う学際的精神を養い、多角的な視野と幅広い学際性を持ち国際的で独創性豊かな高い

水準の能力を備えた次世代の日本研究を担う国内外の研究者の育成を目指します。

本コースは、修士を受け入れる博士後期課程のみから成り、コースに所属する学生は京都府京都市に所在する人間文化研究機構国際日本文化研究センターにおいて学修・研究活動を行います。



国際日本文化研究センター図書館



大学院生の発表機会もある国際シンポジウム



大学院生の企画運営による院生プロジェクト報告会



日本における式典：婚礼と葬儀



寛永行幸図巻



都年中行事画帖

修了生の進路

- 企業、国立研究所等の人文科学・社会科学・自然科学等分野の研究者、大学等の人文科学・社会科学・自然科学系教員、企業等で最先端のプロジェクト型研究を遂行する研究者
- 大学・研究所における専門的歴史研究者、或いは大学等高等教育機関において日本文化・地域文化等の教育・研究に携わる教員、博物館等における研究者・学芸員
- 人文科学・社会科学・自然科学等の分野における民間及び官公庁の研究者 など



国際日本文化研究センター

〒610-1192
京都府京都市西京区
御陵大枝山町3-2

<https://www.nichibun.ac.jp/ja/>

日本歴史研究 コース

Japanese History

国立歴史民俗博物館

National Museum of Japanese History

人間文化研究機構

National Institutes for the Humanities

教育課程 博士後期課程

学 位 博士（文学）・博士（学術）



コース長

坂本 稔

国立歴史民俗博物館（歴博）を基盤機関とする日本歴史研究コースでは、歴史学、考古学、民俗学、美術史、情報学、分析科学などさまざまなアプローチから歴史研究を進めることができます。歴博が所蔵する膨大な歴史文化資料と最新の分析機器等を活用した実践的な研究ができることも大きな特色です。文理さまざまな学問領域をカバーする他の 19 コースとの連携もめざしています。幅広い関心から歴史の研究に取り組む仲間を歓迎します。

広義の日本歴史の分野に関して、専門的ならびに国際的・学際的な視野をもち、特定の専門分野や資料に根ざして高度で先端的な研究を行える研究者、および、高い研究能力をもって社会に貢献できる人材の育成を目的とします。

本コースは、修士を受け入れる博士後期課程のみ

から成り、コースに所属する学生は千葉県佐倉市に所在する人間文化研究機構国立歴史民俗博物館において学修・研究活動を行います。博物館の膨大な所蔵品と最新の分析技術を駆使して、資料に基づいた最高レベルの研究を博士論文に結実させます。



収蔵庫



【講義風景】第1展示室「ナウマンゾウ」前



【公開講演会】鼎談



被災歴史文化資料の救済活動（宮城県石巻市）



【講義風景】第2展示室「御朱印船模型」前



「歴博桜屏風」

修了生の
進路

●大学、研究所における専門的歴史、民俗、考古等研究者、あるいは博物館等における研究者、学芸員等。



国立歴史民俗博物館

〒285-8502

千葉県佐倉市城内町117

<https://www.rekihaku.ac.jp/index.html>

日本文学研究 コース

Japanese Literature

国文学研究資料館

National Institute of Japanese Literature

人間文化研究機構

National Institutes for the Humanities

教育課程 博士後期課程

学位 博士（文学）



コース長

西村慎太郎

本コースでは、複数の教員による指導体制のもと、多様な観点から日本文学等に関する一次資料を活用した技術と研究力を身に付けることができます。国文学研究資料館が所蔵する膨大な日本古典籍や近代文献、文書、画像資料、そして国内外の研究ネットワークは卓越した研究資源であり、最先端の研究プロジェクトを学ぶ機会も得られます。自身の知的好奇心を大切にしながら、独創的な研究を志す方々をお待ちしています。

先端学術院

日本文学研究コースは、国文学研究資料館を基盤機関とし、日本文学の新たな発展を担う人材を養成します。具体的には、文化資源のうち文献を主とした一次資料を研究対象とし、専門的な調査技術と総合的な分析力・知識・技能等の修得を目指します。論理的な思考能力や文章表現力、独創的かつ学際的な視点

を育むとともに、周辺領域の課題にも取り組み、国内外で活躍できる広い視野を持つ研究者を育成します。

本コースは、博士後期課程のみから成り、コースに所属する学生は東京都立川市に所在する人間文化研究機構国文学研究資料館において学修・研究活動を行います。



国文学研究資料館書庫



院生図書室



アーカイブズ学入門の講義（アーカイブズ・カレッジ）



国文学研究資料館

〒190-0014

東京都立川市緑町10-3

<https://www.nijl.ac.jp/>

修了生の
進路

- 大学・研究機関における専門的日本文学研究者、
或いは大学等高等教育機関において日本文学等の
教育・研究に携わる教員、美術館・博物館におけ
る学芸員等。

日本語言語科学 コース

Japanese Language Sciences

国立国語研究所

National Institute for Japanese Language and Linguistics

人間文化研究機構

National Institutes for the Humanities

教育課程 博士後期課程

学 位 博士（文学）・博士（学術）



コース長

石黒 圭

日本語言語科学コースは、言語を研究対象とする日本の大学院プログラムの中で特筆すべき特徴を持っています。それは、文化科学領域のみならず数理情報領域におよぶ幅広い研究活動が行われている環境で、言語についての研究ができる点です。コース名が、日本語学でも言語学でもない、「日本語言語科学」であるゆえんです。このような環境の中で、独創的な言語研究にチャレンジする若き研究者を、日本語言語科学コースはお待ちしております。

日本語言語科学コースでは、国立国語研究所が蓄積した言語資源と研究ネットワークを活用しながら、日本語をデータに基づいて客観的、定量的に分析することのできる次世代の研究者を養成します。そのために、従来の分析手法にくわえて、理論、実験、教育、フィールドワーク、社会調査、コンピュータシミュ

レーションにおける新しい手法によって言語分析をおこなう能力、技能を涵養します。

本コースは、修士を受け入れる博士後期課程のみから成り、コースに所属する学生は東京都立川市に所在する人間文化研究機構国立国語研究所において学修・研究活動を行います。



使役交替言語地図

まとめ検索 KOTONOHA

言語	国・地域	言語学	言語学	言語学
日本語	日本	言語学	言語学	言語学
英語	アメリカ	言語学	言語学	言語学
中国語	中国	言語学	言語学	言語学
韓国語	韓国	言語学	言語学	言語学
インドネシア語	インドネシア	言語学	言語学	言語学
タイ語	タイ	言語学	言語学	言語学
ベトナム語	ベトナム	言語学	言語学	言語学
ラオス語	ラオス	言語学	言語学	言語学
ミャンマー語	ミャンマー	言語学	言語学	言語学
カンボジア語	カンボジア	言語学	言語学	言語学
フィリピン語	フィリピン	言語学	言語学	言語学
インドネシア語	インドネシア	言語学	言語学	言語学
タイ語	タイ	言語学	言語学	言語学
ベトナム語	ベトナム	言語学	言語学	言語学
ラオス語	ラオス	言語学	言語学	言語学
ミャンマー語	ミャンマー	言語学	言語学	言語学
カンボジア語	カンボジア	言語学	言語学	言語学
フィリピン語	フィリピン	言語学	言語学	言語学

まとめ検索 KOTONOHA



「じぢずづ」の仮名遣いを記した本（1695〔元禄8〕年刊）

修了生の
の
進路

〔想定される進路〕

●日本語学・日本語教育学などの領域において日本語情報処理やデータサイエンスなどを活用した研究を行える大学教員・研究者、言語学的専門知識を活かして情報処理産業で活躍するデータサイエンティスト・自然言語処理技術者、言語学的専門知識を有する学芸員・アーキビスト・地方公共団体職員、国内外において日本語教育の指導にあたる研究・教育者、国語・日本語に関するデジタル教材開発者など。



国立国語研究所

〒190-8561

東京都立川市緑町10-2

<https://www.ninjal.ac.jp/>

情報学コース

Informatics

国立情報学研究所

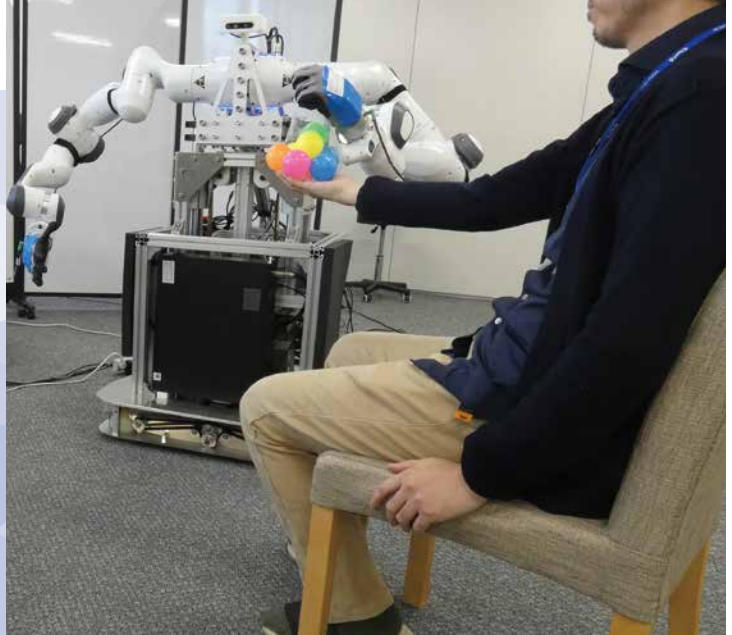
National Institute of Informatics

情報・システム研究機構

Research Organization of Information and Systems

教育課程 5年一貫制博士課程・博士後期課程

学位 博士(情報学)・博士(学術)



コース長

武田 英明

情報学は、情報工学・情報科学にとどまらず、データサイエンティストに必要とされる人工知能、数理、そして人間や社会を対象とする人文情報学、社会情報学までをカバーする総合的な学問分野です。本コースでは、情報学の基礎・応用・実用のさまざまなフェーズの研究・教育を行うことで、秀でた研究者・エンジニアを育成するとともに、高度な専門職業人を養成し、世界的に活躍できるリーダーを育てることを目的とします。

情報学コースは、情報社会の更なる発展のため、情報科学・情報工学から人文社会情報学まで幅広く横断する学際領域である情報学の分野において、新たな先端的貢献を行う人材の育成を目的とします。

本コースは、学士を受け入れる5年一貫制博士課程、

および、修士を受け入れる博士後期課程の2つの課程から成り、本コースを履修する学生は東京都千代田区に所在する情報・システム研究機構 国立情報学研究所で学修活動・研究活動を行います。



16階ラウンジにおける交流の様子



オープンハウスでのポスター展示



所内研究用に整備した高性能クラウド



国立情報学研究所

〒101-8430
東京都千代田区一ツ橋2-1-2
<https://www.nii.ac.jp/>

修了生の
進路

- 国内外の大学、公的研究機関、企業における情報学(情報技術ITの基礎理論・応用、AI・データサイエンスの基礎・応用など)分野に従事する研究者・技術者。
- 大学等の情報学に関する教員。
- 企業・大学等における情報学に関するプロジェクト型研究を遂行できる研究者・技術者。

統計科学コース

Statistical Science

統計数理研究所

The Institute of Statistical Mathematics

情報・システム研究機構

Research Organization of Information and Systems

教育課程 5年一貫制博士課程・博士後期課程

学位 博士(統計科学)・博士(学術)

コース長

吉本 敦

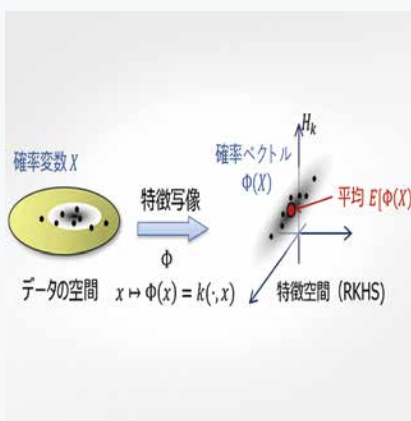
統計数理研究所では、最先端の研究にスムーズに触れられる環境が整っています。様々なプロジェクトが動いており、大学院生でも興味のあるプロジェクトに参加することが可能です。研究指導においては、主任指導教員だけでなく、副指導教員も用意されており、視野の広い研究者になるための体制が整えられています。また、基礎力を身に付けるための、様々な科目が用意されています。日本において、統計科学を学んで研究する上で、これ以上ない環境と言えましょう。

現実社会からの情報ないし知識の抽出を、データに基づいて実現するために、データ収集の設計、モデリング、推論、予測およびこれらの基礎、数理、応用に関わる教育研究を行い、複雑に相互に絡み合うさまざまな重要課題の解決に貢献する創造性豊かな研究能力を備えた人材の育成を目的とします。

本コースは、学士を受け入れる5年一貫制博士課程および修士を受け入れる博士後期課程の2つの課程から成り、コースに所属する大学院生は東京都立川市に所在する情報・システム研究機構統計数理研究所で学修・研究活動を行います。



統計数理研究所図書館



カーネル法の図



データ同化スーパーコンピュータシステム HPE Superdome Flex

修了生の
進路

- 国内や海外の大学等、企業や国立の研究所等、IT・製造業・金融業・製薬業などの企業、など



統計数理研究所

〒190-8562
東京都立川市緑町10-3
<https://www.ism.ac.jp/>

素粒子原子核 コース

Particle and Nuclear Physics

素粒子原子核研究所

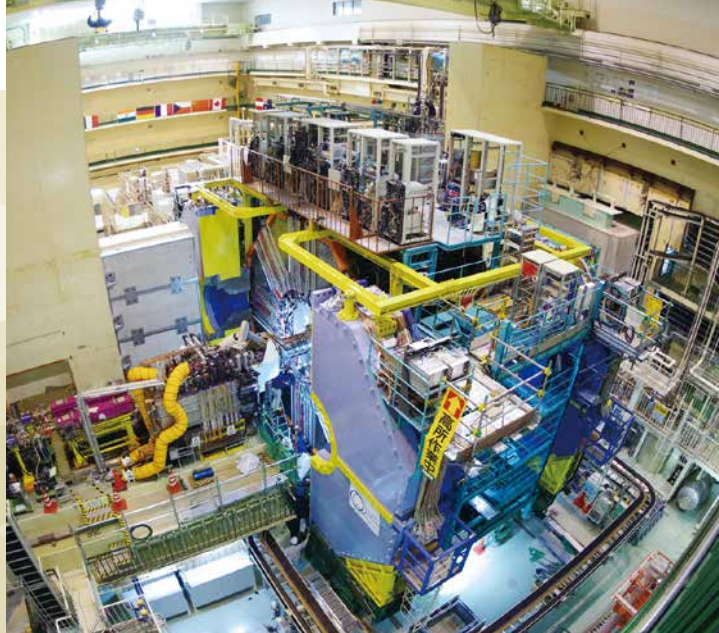
Institute of Particle and Nuclear Studies

高エネルギー加速器研究機構

High Energy Accelerator Research Organization

教育課程 5年一貫制博士課程・博士後期課程

学位 博士(学術)・博士(理学)



コース長

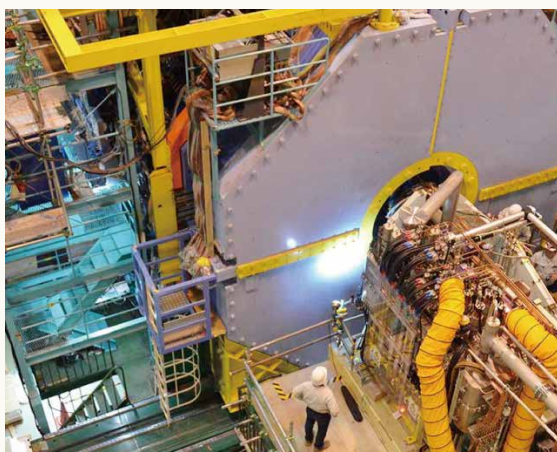
原 隆宣

KEKは、欧州のCERNなどと並ぶ有数の研究機関として、素粒子原子核物理研究のフロンティアを切り拓いてきました。KEKの理論もしくは実験の研究グループに所属する総研大生は、最先端の研究に触れながら、博士の学位を取得するまで、研究者としての能力を着実に身につけられます。修了者の中には、既に国内外で活躍している研究者が多数おります。他には類を見ない研究教育環境で、皆さんも研究者を目指しませんか。

素粒子原子核コースは、万物の最小構成要素である素粒子をもとに、原子核を含む様々な量子多体系が示す物理現象を解き明かし、宇宙の成り立ちや起源を探究する次世代の研究者を育成します。素粒子・原子核・宇宙に関連する幅広い分野にまたがる教育を行い、これらの分野の更なる発展に貢献できる広い視野と高い専門性を備えた人材を養成することを目指します。

本コースは、学士を受け入れる5年一貫制博士課

程および修士を受け入れる博士後期課程の2つの課程から構成されています。コースに所属する院生は、高エネルギー加速器研究機構(KEK)素粒子原子核研究所の理論研究グループまたは実験研究グループに所属し、つくばキャンパス、東海キャンパス、和光原子核科学センター、あるいは世界中にある実験施設で学修・研究活動を行います。



T2K前置検出器 ©KEK/T2K



理論グループに所属する総研大生が指導教員と議論の様子。©KEK

新物理の発見を目指して
運転を開始した Belle II 測定器
©KEK



素粒子原子核研究所

〒305-0801

茨城県つくば市大穂1-1

<https://soken-pnp.kek.jp/>

修了生
の
進路

●素粒子・原子核・宇宙関連の研究者・大学教員、企業や国立研究所等で最先端のプロジェクト型研究を遂行する研究者・技術者、原子力、放射線、情報処理、電気、電子、通信等の分野における民間及び官公庁の研究者・技術者など。

加速器科学コース

Accelerator Science

加速器研究施設・共通基盤研究施設

Accelerator Laboratory / Applied Research Laboratory

高エネルギー加速器研究機構

High Energy Accelerator Research Organization

教育課程 5年一貫制博士課程・博士後期課程

学位 博士(学術)・博士(理学)・博士(工学)



コース長

三浦 孝子

加速器科学コースでは、身近に高エネルギー加速器研究機構の世界最先端の大型加速器が稼働しており、それを支える多様な科学技術分野における先進的な技術開発、研究が行われている環境で研究を進めることができます。また加速器に関する基本的な知識の学習や実習を経て、専門の分野における博士研究を進めます。他の人々と協働しつつも、自らの力で課題を見出し解決していく意欲のある方を歓迎いたします。

高エネルギー加速器は、最も単純な素粒子・原子核から原子・分子そして複雑精妙な生命体に至る、自然界の各階層のさまざまな構成要素の最先端の研究に欠かせない大型実験装置です。近年は、産業や医療など直接社会に役立つ分野への応用も目覚ましく進展しています。加速器科学は加速器の原理研究や開発を担う科学技術の粋を集めた複合科学です。加速器科学コースでは理論・実験両面から実践的に加速器科学を修得し、研究を行います。加速器科学を支えている放射線科学、計算機科学、超伝導低温

技術や機械工学分野の学修・研究も行うことができます。本コースで学ぶことによって加速器科学の将来を担い、加速器科学を通じて自然科学の推進に貢献する研究者となることを目指します。

本コースは、学士を受け入れる5年一貫制博士課程および修士を受け入れる博士後期課程の2つの課程から成り、茨城県つくば市と東海村の2か所に広いキャンパスを持つ高エネルギー加速器研究機構(KEK)の加速器研究施設と共通基盤研究施設において学修・研究活動を行います。



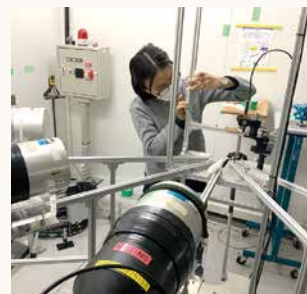
J-PARC ニュートリノ実験施設の超伝導電磁石



高速ビームキッカーの組み立て作業の様子



フォトンファクトリー電子蓄積リングにおけるビームスタディの様子



光中性子測定のための検出器設置の様子

修了生の
進路

● 国内外の加速器関連研究機関の研究者や民間企業の研究者



加速器研究施設・共通基盤研究施設

〒305-0801

茨城県つくば市大穂1-1

<https://www2.kek.jp/accl/>

<https://www2.kek.jp/arll/>

天文科学コース

Astronomical Science

国立天文台

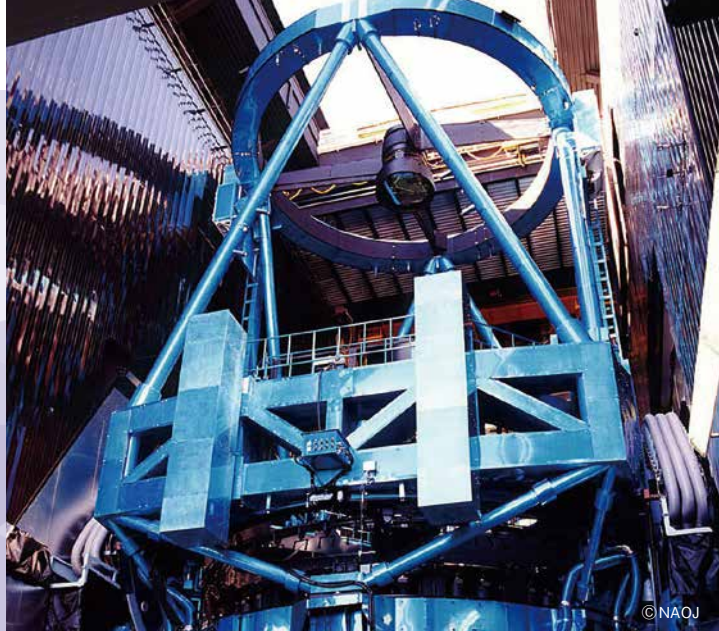
National Astronomical Observatory of Japan

自然科学研究機構

National Institutes of Natural Sciences

教育課程 5年一貫制博士課程・博士後期課程

学位 博士(学術)・博士(理学)・博士(工学)



© NAOJ

コース長

関井 隆

総合研究大学院大学天文科学コースでは、天文学研究に理論的に、観測的に、あるいは新しい観測機器の開発を通じて取り組んでいます。数多くのさまざまな分野の研究者が集まる国立天文台を舞台に、多くの大学院生が学び、研究しています。物理や数学が得意な人、プログラミングが好きな人、実際の宇宙を観ることに何よりも胸が踊る人、そしてモノを作るのに熱中できる人。その誰にも活躍の場があります。天文科学コースで学んでみませんか。

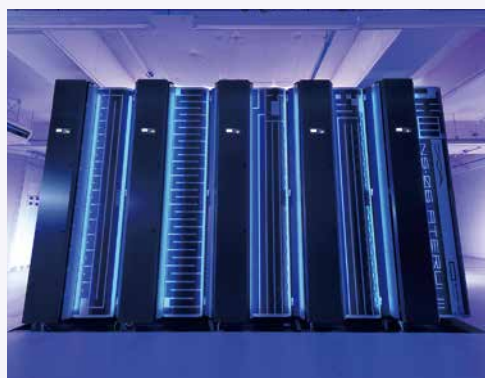
天文科学コースでは最先端の光学赤外線望遠鏡、電波望遠鏡を用いたさまざまな観測的研究及び理論的研究を通じて高度な教育研究を行います。より具体的には天文観測の基礎となる先端の新技术の学理と応用、新しい観測装置の設計・製作・実験、データ取得・解析法の開発等の観測天文学の基礎・応用にわたる技術開発とそれらを用いた観測的研究およ

びスーパーコンピュータなどを用いた理論研究を含む天文科学研究を行っています。

本コースは学士を受け入れる5年一貫制博士課程、および修士を受け入れる博士後期課程の2つの課程から成り、コースに所属する院生は三鷹市に本部をおく自然科学研究機構国立天文台で学修・研究活動を行います。



ALMA 望遠鏡 Credit: X-CAM / ALMA (ESO/NAOJ/NRAO)



天文学専用スーパーコンピュータ「アテルイⅢ」 Credit: NAOJ



国立天文台

〒181-8588
東京都三鷹市大沢2-21-1
<https://www.nao.ac.jp/>

修了生の
進路

●国内外の大学や研究機関における天文科学及びその関連分野の研究教育職員・研究職員、企業の技術者、サイエンスコミュニケーター

先端
学
術
院

核融合科学コース

Fusion Science

核融合科学研究所

National Institute for Fusion Science

自然科学研究機構

National Institutes of Natural Sciences

教育課程 5年一貫制博士課程・博士後期課程

学位 博士(学術)・博士(理学)・博士(工学)



コース長

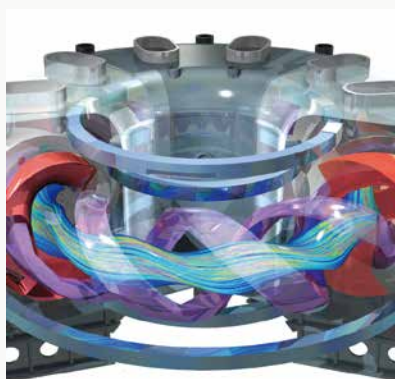
榊原 悟

核融合科学コースでは、核融合炉の早期実現に向けて、プラズマ物理学の理解や計測機器開発、制御技術、炉で求められる耐熱性、耐放射性に優れた材料の開発研究や超伝導技術の向上など、未踏の研究課題に積極的に取り組む学生を求めています。核融合科学研究を軸として自己のスキルを磨き、どの研究分野にも通用する総合理工学者の育成を目指しています。学生の皆さんのチャレンジを期待しています。

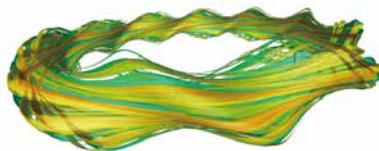
核融合科学コースは、核融合炉の早期実現に必要なとされる幅広い理工学分野を体系的に理解し、様々な研究分野に通用する総合理工学者を育成します。高度な研究(実験、理論等)を遂行し、研究結果を合理的に理解し、未踏の研究課題に挑戦することにより、新たな技術、高い価値を有するスキルを身に着け、核融合エネルギーの実現をはじめ人類の発展

に貢献する人材の輩出を目指します。

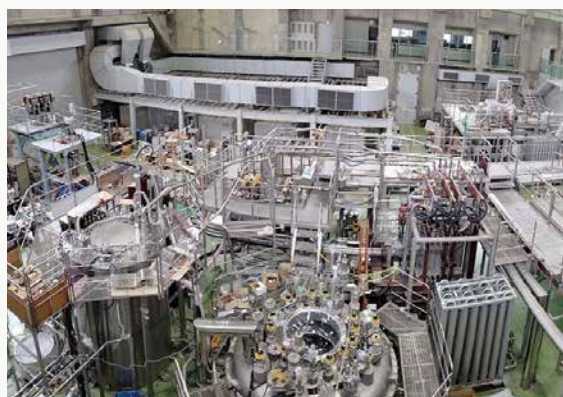
本コースは、学士を受け入れる5年一貫制博士課程および修士を受け入れる博士後期課程の2つの課程から成り、コースに所属する院生は岐阜県土岐市に所在する自然科学研究機構核融合科学研究所で学修・研究活動を行います。



ジャイロ運動論粒子コードによる大型ヘリカル装置の炉心プラズマにおける微視的不安定性シミュレーション



LHDの第一原理乱流シミュレーション



超伝導マグネット研究棟の超伝導体試験装置群

修了生の
進路

●国立研究所等の核融合関連分野の技術者・研究者、大学等の核融合学(プラズマ実験、理論、材料工学や超伝導工学等)系教員、企業等で最先端のプロジェクト型研究を遂行する技術者・研究者



核融合科学研究所

〒509-5292

岐阜県土岐市下石町322-6

<https://www.nifs.ac.jp/>

宇宙科学コース

Space and Astronautical Science

宇宙科学研究所

Institute of Space and Astronautical Science

宇宙航空研究開発機構

Japan Aerospace Exploration Agency

教育課程 5年一貫制博士課程・博士後期課程

学位 博士(理学)・博士(工学)・博士(学術)



©JAXA

コース長

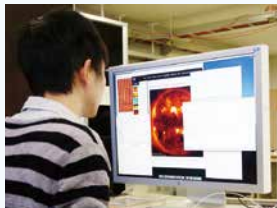
山田 亨

本コースでは、宇宙科学の研究を推進する世界的研究拠点である JAXA 宇宙科学研究所との連携を活かし、その第一線で研究やプロジェクトを推進する研究者による高度の教育研究指導を行います。宇宙望遠鏡・宇宙実験機や太陽系の科学探査を行う探査機などの科学衛星、超小型衛星、大気球実験、ロケットなど、様々な手段やその開発を通じて、宇宙を舞台とする新たな理学・工学分野の学習や研究に取り組んでみませんか？ 次代を担う宇宙科学研究や今後の宇宙利用に繋がる研究や開発に取り組む意欲ある学生の志望を期待します。

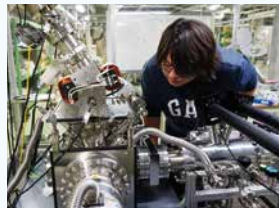
宇宙科学コースは、宇宙物理学、太陽系科学、そして宇宙工学に関する理論研究、観測データの解析、および研究開発の実践を通じて高度な教育研究指導を行い、広い視野と国際的に高い水準の能力を備えた研究者や、高度な専門知識をもって社会に貢献する人材を育成します。特に、最先端かつ大規模な宇宙プロジェクトに身近に接することで、宇宙科学の豊

かな学識のみならず宇宙プロジェクトの立案能力を涵養します。

本コースは、学士を受け入れる5年一貫制博士課程および修士を受け入れる博士後期課程の2つの課程から成り、コースに所属する院生は神奈川県相模原市に所在する宇宙航空研究開発機構相模原キャンパスで学修・研究活動を行います。



人工衛星観測で得られたデータの解析



学位研究の実験風景



小型月着陸実証機 SLIM は、月面への高精度ピンポイント着陸に成功した。©JAXA / タカラトミー / ソニーグループ(株) / 同志社大学



宇宙の謎に挑む X 線分光観測衛星 XRISM ©JAXA



「射点に立つイプシロンロケット」©JAXA



宇宙科学演習で、観測ロケット実験に参加



宇宙科学研究所

〒252-5210

神奈川県相模原市中央区由野台3-1-1

<https://www.isas.jaxa.jp/>

修士生の
進路

●大学、国立研究所等の宇宙科学(宇宙物理学、太陽系科学、宇宙工学)分野の教員・研究員、企業や国立研究所等の宇宙開発関連分野の技術者・研究者、企業等で最先端のプロジェクト型研究を遂行する技術者など。

先端
学術
院

分子科学コース

Molecular Science

分子科学研究所

Institute for Molecular Science

自然科学研究機構

National Institutes of Natural Sciences

教育課程 5年一貫制博士課程・博士後期課程

学位 博士(理学)・博士(学術)



コース長

飯野 亮太

分子科学は、化学、物理学、生命科学といった自然科学を広くカバーしています。本コースでは、上記分野やその融合領域の研究者である教員の丁寧な指導のもとで学びながら、一般の大学にない施設や機器を活用した研究を推進して頂きます。研究のキーワードには、量子技術、分光、イメージング、超伝導、キラリティ、スピン、トポロジ、物質変換、エネルギー変換、触媒、酵素、タンパク質等が挙げられます。皆さんの入学を歓迎いたします。

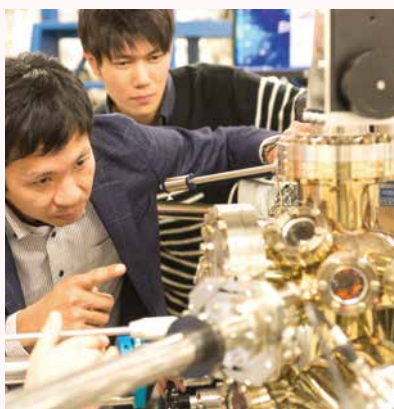
分子科学コースは、物質の基本構成単位である分子に対する体系的理解を確立し、物質が示す多種多様な現象を解き明かす次世代の研究者を育成します。高度な研究(実験・測定・理論等)を遂行し、研究結果を合理的に理解し、自由な着想から未踏の課題に挑戦し、新たな知的価値や普遍的な真理を追究し、分子科学に立脚し人類の発展に貢献する人材の輩出

を目指します。

本コースは、学士を受け入れる5年一貫制博士課程および修士を受け入れる博士後期課程の2つの課程から成り、本コースを履修する学生は愛知県岡崎市に所在する自然科学研究機構分子科学研究所で学修・研究活動を行います。



極端紫外光シンクロトロン放射光研究施設 UVSOR-III



光電子分光法による電子状態測定



高速液体クロマトグラフィーによるタンパク質の精製

修了生の
進路

●大学や国公立研究所等における分子科学関連分野の研究者・教員、公的研究プロジェクトや民間研究所における先端的研究課題を遂行する研究者・技術者。



分子科学研究所

〒444-8585

愛知県岡崎市明大寺町字西郷中38番地

<https://www.ims.ac.jp/>

物質構造科学 コース

Materials Structure Science

物質構造科学研究所

Institute of Materials Structure Science

高エネルギー加速器研究機構

High Energy Accelerator Research Organization

教育課程 5年一貫制博士課程・博士後期課程

学位 博士(学術)・博士(理学)・博士(工学)



コース長

熊井 玲児

物質構造科学コースは、大型加速器から得られる放射光、中性子、ミュオン、低速陽電子などの量子ビームを利用した最先端の科学研究を行っています。その中で、基礎科学から産業応用に至る広範な研究分野において、物質の構造と機能の解明という基礎的・先端的 연구를切り拓く研究者を育成しています。本コースの修了生は国内外の量子ビーム施設の中核的な研究者として活躍するだけでなく、量子ビームを利用した研究を推進するパワーユーザーとなることが期待されています。

物質構造科学コースでは、先端的加速器から得られる放射光、中性子、ミュオン、低速陽電子などの量子ビームを利用した最先端の科学研究を行っています。その中で、物理学や化学をはじめ、材料科学、生命科学、医学、環境科学、地球科学などの極めて広範囲かつ最先端の研究分野において、物質の構造・機能の解明という基礎的・先端的 연구를切り拓く研究者を育成します。量子ビームの発生技術・利用技

術の一層の高度化の研究を進めることにより、物質構造科学の新たなフロンティアの開拓に寄与する人材の輩出を目指しています。

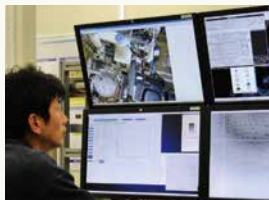
本コースは、学士を受け入れる5年一貫制博士課程および修士を受け入れる博士後期課程の2つの課程から成り、コースに所属する大学院生は茨城県つくば市と東海村に所在する高エネルギー加速器研究機構(KEK)物質構造科学研究所で学修・研究活動を行います。



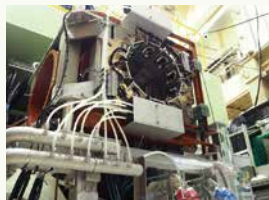
放射光実験施設 Photon Factory (PF) ©IMSS



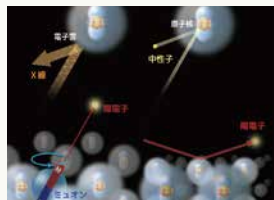
物質・生命科学実験施設(MLF)の実験ホール ©IMSS



放射光を用いた生体高分子のX線結晶構造解析実験



MLFのミュオンD1実験装置 ©IMSS



4種の量子ビーム



PF実験ホール ©IMSS

修了生の
進路

- 国内外の量子ビーム施設における技術者・研究者、大学・公的研究機関等の物質・生命科学系教員・研究者、企業等で最先端のプロジェクト型研究を遂行・主導する技術者・研究者など。



物質構造科学研究所

〒305-0801

茨城県つくば市大穂1-1

<https://www2.kek.jp/imss/>

総合地球環境学 コース

Global Environmental Studies

総合地球環境学研究所

Research Institute for Humanity and Nature

人間文化研究機構

National Institutes for the Humanities

教育課程 博士後期課程

学 位 博士（学術）・博士（理学）



コース長

近藤 康久

総合地球環境学コースは、2023 年度より新たに総研大に加わったコースです。各教員の専門分野や分野横断型の学際研究を行うプロジェクトを活かした、多岐にわたる地球環境に関する研究を行うことができます。総合地球環境学に関する幅広い講義やセミナーに参加しつつ、独自の視点を持った研究を行いたいと考える皆さんの積極的な応募を期待しています。

総合地球環境学コースは、人間文化研究機構総合地球環境学研究所（地球研）を基盤機関とします。地球研は、地球スケールで地域から人と自然の関係のあるべき姿を描き、平等かつ公平で、未来可能な地球社会の実現を目指します。そのために、人文学・社会科学・自然科学の文理融合による学際研究に加え、社会と連携・協働した超学際研究により、「人と自然の相互作用環」を根源的かつ包括的に理解しつつ、地球環境問題の解決に向けた実践に取り組み、もって「総合地球環境学」を先導します。本コースでは、このような研究環境のもとで、自らの専門性に立

脚して課題を設定し、その研究に取り組む自立した研究者を養成します。総合地球環境学を構成する学問領域に蓄積された知見と方法論を修得するための教育課程として、先進的な理論と方法、実践に根ざした授業科目群や教育プログラムを展開し、少人数教育のメリットを最大限に活かした研究指導を行います。

本コースは、修士課程修了者を受け入れる博士後期課程のみからなり、コースに所属する学生は京都市に所在する地球研を拠点として学修・研究活動を行います。



研究室の枠組みにとらわれず議論し、互いに切磋琢磨できる研究環境を反映させたプロジェクト研究室



沖縄県八重瀬町での「みずのわ教室」。地域の子供たちと一緒に湧き水調査（LINKAGEプロジェクト、実施年度：2022-2026）



地球研・Future Earth アジア地域センター共催によるTD研修（TERRA School 2019）



国内有数の安定同位体の分析研究環境



研究員とインターンが調査の内容を確認（FairFrontiersプロジェクト、実施年度2020-2025）



持続可能な資源利用に向けて（Sustain-N-ableプロジェクト、実施年度：2022-2027）

修了生の
進路

〔想定される進路〕

- 大学等高等教育機関において環境学系の教育・研究に従事する教員。
- 企業・官公庁・国公立研究所・地方自治体・国際機関・NGO等の環境関連分野の技術者・研究者・職員。
- 博物館等における研究者・学芸員。



総合地球環境学研究所

〒603-8047

京都府京都市北区上賀茂本山457番地4

<https://www.chikyu.ac.jp/rihn/education/>

極域科学コース

Polar Science

国立極地研究所

National Institute of Polar Research

情報・システム研究機構

Research Organization of Information and Systems

教育課程 5年一貫制博士課程・博士後期課程

学位 博士(理学)・博士(学術)



コース長

平譯 享

極域科学コースは、南北両極域の自然現象を中心に、全球的規模の環境をも視野に入れた教育・研究を行い、高度の研究能力を具備し、特に「フィールドサイエンティスト」としての力量をもつ優れた研究者を養成します。新しい時代の極域科学に挑戦する、意欲に満ちた学生を歓迎します。

極域科学コースは、宇宙惑星科学、太陽地球系物理学、大気・海洋・雪氷科学、固体地球科学、生命科学などを基礎として、南北両極や高山等の極域にあらわれる様々な自然現象や物象を支配する普遍的な原理や法則の探究、または地球環境変動や地球惑星システムに果たす極域の役割および極域の地史・

自然史の解明を目標に、高度な研究能力を持つ優れた研究者を養成することを目指します。

本コースは、学士を受け入れる5年一貫制博士課程および修士を受け入れる博士後期課程の2つから成り、コースに所属する院生は東京都立川市に所在する国立極地研究所で学修・研究活動を行います。



南極のオーロラ
(撮影 極域科学専攻修了 鈴木秀彦)



南極観測船「しらせ」から撮影
(撮影 極域科学専攻 高橋啓伍)



南極のペンギン
(撮影 極域科学専攻修了 川又基人)



国立極地研究所

〒190-8518
東京都立川市緑町10-3
<https://www.nipr.ac.jp/>

修了生の
進路

●大学、国立研究所、企業等の地球惑星科学分野やその他理工学系の研究者・技術者

基礎生物学コース

Basic Biology

基礎生物学研究所

National Institutes for Basic Biology

自然科学研究機構

National Institutes of Natural Sciences

教育課程 5年一貫制博士課程・博士後期課程

学位 博士(理学)・博士(学術)



コース長

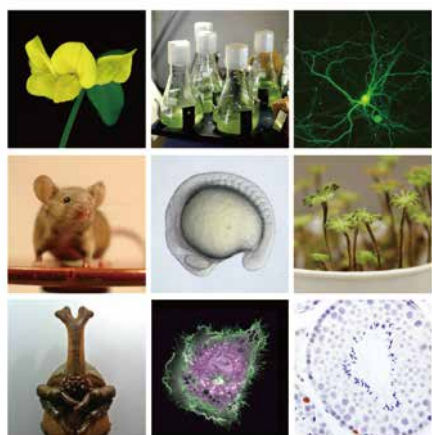
新美 輝幸

基礎生物学コースでは、様々な生物の特性を活かし、最先端技術を駆使して革新的な生物学にチャレンジしています。私たちは、学生の皆さんが独自の問題発見・解決能力を磨き、未来の生物学研究をリードできる研究者としての素質を培っていただくことを目指しています。切磋琢磨し合いながら、未踏の領域へ果敢に挑戦しましょう。

基礎生物学コースの基盤機関である基礎生物学研究所では、すべての生物に共通で基本的な仕組み、生物が多様性をもつに至った仕組み、および生物が環境に適応する仕組みを解き明かす研究を行っています。基礎生物学コースは、ここでの研究活動や授業科目の履修などを通して、より基本的で重要な問

題を発掘し、その解決に挑む研究者を育成することを目的としています。

本コースには、学士を受け入れる5年一貫制博士課程と修士を受け入れる博士後期課程があり、履修学生は、主として愛知県岡崎市にある自然科学研究機構基礎生物学研究所で学修・研究活動を行います。



研究対象の様々なモデル生物、および新規モデル生物



研究活動のーコマ



研究活動のーコマ



基礎生物学研究所 明大寺地区



基礎生物学研究所 山手地区



次世代を担う研究者を育成

修了生の
進路

●大学・研究所等における生命科学関連分野の教員・研究員、生命科学・化学・製薬・医療関連等の企業における研究・開発担当者



基礎生物学研究所

〒444-8585
愛知県岡崎市明大寺町西郷中38
<https://www.nibb.ac.jp/>

生理科学コース

Physiological Sciences

生理学研究所

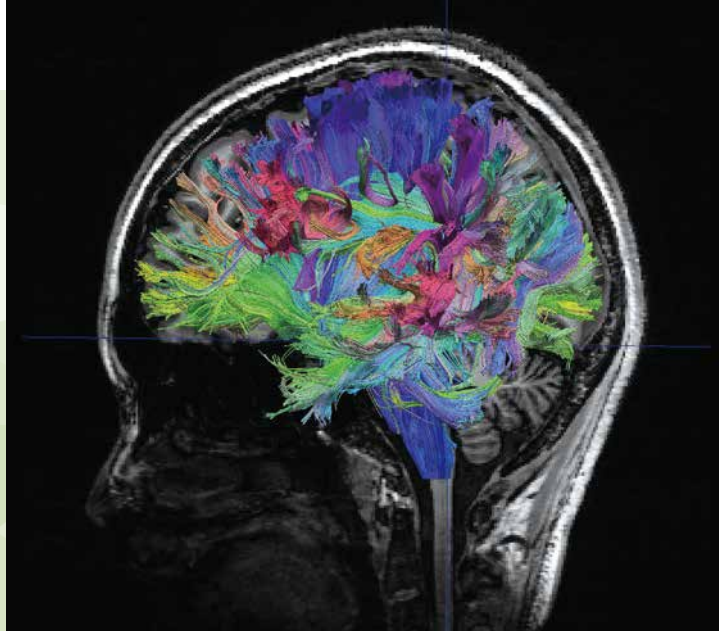
National Institute for Physiological Sciences

自然科学研究機構

National Institutes of Natural Sciences

教育課程 5年一貫制博士課程・博士後期課程

学位 博士(学術)・博士(理学)・博士(脳科学)・
博士(医学)



コース長

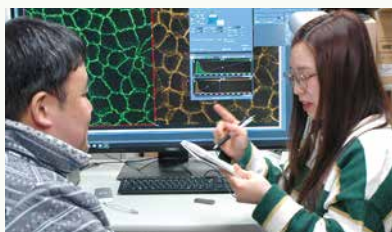
古瀬 幹夫

生理科学コースでは、脳と神経、脳と相互関連する器官のはたらきを中心として、特にヒトの体のはたらきやその仕組みの理解につながる研究を推進しています。私たちの体の仕組みを研究することは、健康の維持、病態の理解にも直結します。生命科学の中でもヒトに関心をもつ学生のみならず、優れた研究環境がある生理科学コースで一緒に研究しませんか。

生理科学は、からだのはたらきとそのメカニズムを解き明かす学問領域であり、生命科学の発展に寄与するのみならず、人々が健康で心豊かな生活を送るための科学的指針や病気の発症メカニズムを理解する基礎となる情報を与えます。生理科学コースは、脳・神経の役割や生体恒常性に関する生理科学分野の課題の解明に取り組むことで生命科学における新し

い知の蓄積に貢献し、本分野を切り拓く先見性を有する研究者又は専門家の輩出を目指します。

本コースは、学士を受け入れる5年一貫制博士課程および修士を受け入れる博士後期課程の2つの課程から成り、本コースを履修する学生は愛知県岡崎市に所在する自然科学研究機構生理学研究所で学修・研究活動を行います。



少人数による丁寧な研究指導



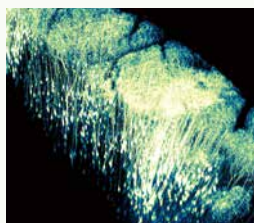
学位授与式の一幕



国際研究会での成果発表と議論



ヒトの脳の核磁気共鳴イメージング



生きたままの脳神経細胞の
三次元イメージング



先端機器を利用できる研究環境

修士生の 進路

- 大学等の学術研究機関、生命科学関連企業など



生理学研究所

〒444-8585
愛知県岡崎市明大寺町字西郷中38
<https://www.nips.ac.jp/>

遺伝学コース

Genetics

国立遺伝学研究所

National Institute of Genetics

情報・システム研究機構

Research Organization of Information and Systems

教育課程 5年一貫制博士課程・博士後期課程

学位 博士(理学)・博士(学術)



コース長

齋藤 都暁

遺伝学コースに入学した学生は、国立遺伝学研究所(遺伝研)の構成員として遺伝研の優れた研究環境を活用して研究することができます。遺伝研は、学生数と比べて教員数が多い特性を生かして、研究所全体で一人一人の学生を丁寧に育てています。大学院生自身が指導教員以外の教授・准教授から数名のプログレス委員を選び研究に関するアドバイスを受けられる「プログレス制度」は、大学院生が所属研究室の枠を超えて、多様な考え方、幅広い最先端の知識・技術を学ぶために役立っています。遺伝研で研究者としての基礎トレーニングを受けた卒業生は、アカデミア(大学・研究所等)だけでなく、国内外の幅広い分野で活躍しています。

遺伝学コースでは、遺伝学を根幹とする生命科学の分野についての深い洞察力と知識を備え、研究の将来を展望する豊かな構想力をもつ研究者を育成します。

本コースは、5年一貫制博士課程および博士後期課程の2課程から成り、学生は主に静岡県三島市にある国立遺伝学研究所で研究活動を行います。



先端技術を提供する研究施設を利用することが可能です



ディスカッションを通して「考える力」や「討論する力」の育成を目指します



ポスター発表の場で所内のあらゆる教員や研究者と議論する機会があります



多岐分野にわたる国内外の研究者によるセミナーが頻繁に開催されています



好きなだけ研究に没頭できます

修了生の
進路

- 研究職(国内外の大学、研究所、企業)、技術職(IT、知財)、出版関係など。



国立遺伝学研究所

〒411-8540

静岡県三島市谷田1111

<https://www.nig.ac.jp/nig/ja/>

統合進化科学 コース

Integrative Evolutionary Science

統合進化科学研究センター

Research Center for Integrative Evolutionary Science

教育課程 5年一貫制博士課程・博士後期課程

学位 博士(理学)・博士(学術)



コース長

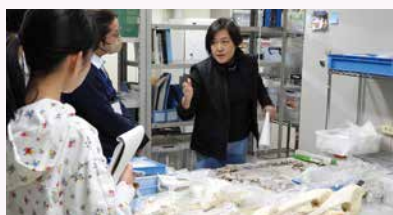
沓掛 展之

私たちが研究する原動力は何でしょうか。深く知りたいから。興味があるから。不思議に感じるから。未解明の問題を解決したいから。大発見をしたいから。原動力は人それぞれだと思います。それがどのようなものであれ、研究が好き、という点は共通していると思います。統合進化科学コースは、そんな気持ちを持つ学生のためのコースです。進化、科学と社会が好きな学生と一緒に研究することを楽しみにしています。

統合進化科学とは生物の変容、人間の諸活動の変遷、および地球規模の諸問題の進行を進化の視点から俯瞰的に捉え、生物学の発展のみならず人間の本質の理解や社会問題の解決を目指す新たな学問領域です。統合進化科学コースは統合進化科学研究センターと連携し、真理の追究と社会への還元に努め、本分野の将来を担う人材を輩出し、科学および社会の発展に広く

貢献することを目指します。本コースを履修する学生は、葉山キャンパスにおいて学修・研究活動を行います。

本コースは、学士を受け入れる5年一貫制博士課程および修士を受け入れる博士後期課程の2つの課程から成り、本コースを履修する学生は神奈川県葉山キャンパスに所在する統合進化科学研究センターで学修・研究活動を行います。



考古遺跡の実物を扱った実習風景



科学史・科学哲学を含む俯瞰的な生命史観の育成



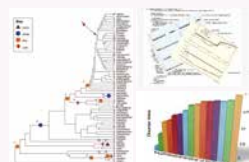
電子顕微鏡・光学顕微鏡・分子生物学実験機器など充実した各種実験設備での実習と研究



フィールド調査から探る進化



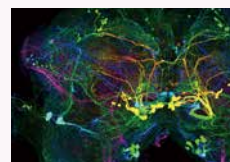
第一線の研究進捗を発表する在学生(プログレスレポート)



理論、統計数理、大規模データ解析を駆使した研究手法習得も



総研大基盤機関や東京大学・海実験所など関連他機関との学術交流



発生・シグナルネットワークの改変と進化



統合進化科学研究センター

〒240-0193

神奈川県三浦郡葉山町(湘南国際村)

<https://rcies.soken.ac.jp/>

修士生の
進路

●大学、研究所、民間企業、NGO、行政における生命科学分野(進化生物学、分子生物学、遺伝学、生態学、医学等)の研究者、或いは科学と社会分野(科学史、科学哲学、科学技術社会論、生命倫理等)の研究者、および科学コミュニケーター等。



他コースの授業科目の履修

本学の授業科目は、関連分野や近い専門領域の学生が履修できる内容であるかどうかを示すために、授業内容の専門性・難易度を表す4段階のレベルで分類されています。本学の学生は、このレベルを活用し、自コースだけでなく、他コースの授業科目の中からも自身の学修に必要な授業科目を選択し、履修することができます。



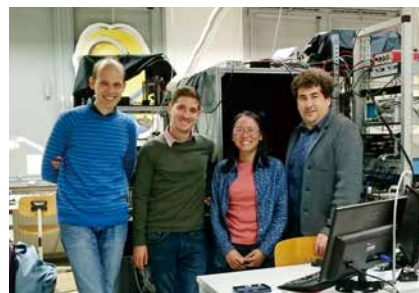
学内共同研究指導

学内共同研究指導制度は、基盤機関を跨いで複合的・融合的な研究課題に取り組もうとする学生のニーズに応え、異なる基盤機関に所属する2名の教員が共同で研究指導を行う制度です。



SOKENDAI 研究派遣プログラム

本事業は、本学の教育理念である「高い専門性」「広い視野」「国際的な通用性」を持つ研究者人材の育成を推進するため、海外での短期の研究活動や、将来のキャリア構築につながる国内外での長期の共同研究等に主体的に取り組む本学学生に対して必要な経費を支援することを目的としています。



2024年度

- 区分1(海外短期) ▶ 派遣学生数: 36名
- 区分2(海外長期) ▶ 派遣学生数: 16名
- 区分3(国内長期) ▶ 派遣学生数: 1名



国際共同学位プログラム

本学では、海外の研究環境を活用して学生の研究力を培い、学位論文研究の幅を広げるとともに、若手人材の国際流動性を高めることを目的として、海外の高等教育機関と協定を締結し、一人の学生に対して双方の機関の教員が共同で学位論文指導を行う「国際共同学位プログラム」を推進しています。



フランスでの研究会の様子



本学と国際共同学位プログラムに関する協定を締結している海外の高等教育機関

国名	機関名
タイ	ヴィタヤシリメディー科学技術大学院大学
ジョージア	ジョージア技術大学
フランス	エコール・サントラル・ナント
フランス	パリ・サクレ大学
フランス	ソルボンヌ大学
イタリア	ボローニャ大学
中国	西南交通大学

左：パリの学生寮の風景
右：合同学位審査の様子

SOKENDAI 特別研究員制度

本事業は、我が国の学術研究及び科学技術・イノベーションに貢献する人材を育成するために、博士後期課程相当に在籍する優秀な志のある学生を特別研究員として採用し、経済的な支援(生活費相当額及び研究費の支給)を行うとともに、多様なキャリアパスの整備に向けた取組を行う制度です。

特別研究員には、全ての分野の学生を対象とした「一般枠」と、将来的にAI(Artificial Intelligence)分野またはAI分野における新興・融合領域を開拓・牽引してこうという志と能力を持つ学生の研究を本格的に推進・先導することを通じてリーディングサイエンティストとして育成することを目的とした「次世代AI研究者枠」があります。

なお、本制度は、科学技術振興機構「次世代研究者挑戦的研究プログラム(SPRING)」及び「次世代AI人材育成プログラム(BOOST)」の助成を受けて実施するものです。

次世代研究者挑戦的研究プログラム
Support for Pioneering Research Initiated by the Next Generation



BOOST

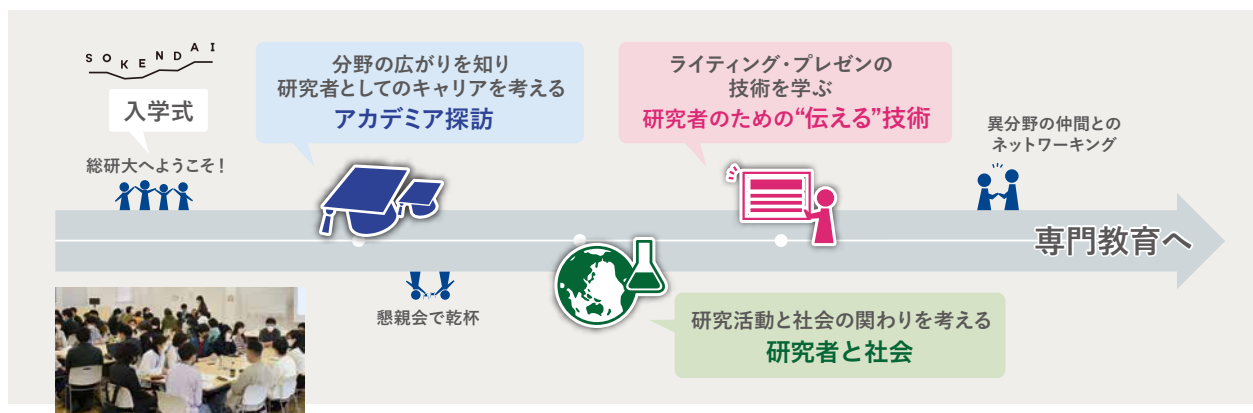
支援実績
(延べ人数)

年度	支援人数 (延べ人数)
2021	19
2022	40
2023	56
2024	53

フレッシュマンコース

フレッシュマンコースは、主に新入生を対象とした集中講義です。本コースは、研究者としての身につけるべき基礎的な知識やリテラシーを習得し、異分野交流を通じて学問の広がりを知ることを目的とした、総研大独自の全学プログラムです。

対面講義は、葉山キャンパス周辺で全員が集う合宿形式で行います。「アカデミア探訪」、「研究者と社会」、「研究者のための“伝える”技術」の3つのセッションで構成されます。



教育研究活動

生命科学リトリート

生命科学リトリートは、総研大の生物学を専門とする学生を対象とした研究集会(集中講義)です。学生と教員が一堂に会し学術的交流を深めることで、生物学をより大きな視点で捉え、これからの生物学の発展に貢献できる人材の育成を目指します。すべて英語による発表を行うことで国際通用性の向上を図ります。

原則として、内容はその年ごとに、学生委員の企画によって決定されます。これまでの例では、学外講師による学術講演、学生研究発表(ポスター発表)、意見交換会を行っています。学生委員はプログラムの企画立案実行を主導することで企画力を養い、参加学生は研究発表を練習す

る場となっています。

2024年度は、山梨県において2日間にわたり開催し、学生・教員合わせて約100名が参加して研究について熱く語り合いました。



地域社会へ向けた事業

本学の教育・研究の成果等を広く社会に公開し、地域社会との交流を深めることを目的として、さまざまな講演会・イベント・シンポジウム等を実施しています。

SOKENDAI 社会連携事業

- 未知への挑戦：若手が語る最先端研究 2024 坂本 稔（日本歴史研究コース 教授）
- 岡崎キャンパスにおける市民向け総研大アウトリーチ活動 北城 圭一（生理科学コース 教授）
- 小型宇宙線検出器を用いた科学実験教育・アウトリーチ活動「探Q」 三原 智（素粒子原子核コース 教授）
- 高専生による小型加速器製作を主体とした社会連携事業 大谷 将士（加速器科学コース 准教授）
- 茨城県東海村での「宇宙線ミュオンで古墳を透視」プロジェクト 小林 隆（素粒子原子核コース 教授）



未知への挑戦



岡崎キャンパスにおける市民向け
総研大アウトリーチ活動



高専生による小型加速器製作を主体とした
社会連携事業



茨城県東海村での「宇宙線ミュオンで古墳を
透視」プロジェクト

湘南国際村アカデミア講演会「カフェ・インテグラル」／総合研究大学院大学 統合進化科学研究センター「学術講演会」

- 哺乳類の鼻はどこから来た？－脊椎動物の顔の進化形態学
東山 大毅（特別研究員）
- 森の賢人を追って－野生オランウータンの調査研究
薦谷 匠（助教）



東山 大毅 特別研究員



薦谷 匠 助教

横高アカデミア

本学は、地域における次世代教育の支援などを目的として、神奈川県立横須賀高等学校と連携して、「横高アカデミア」の事業を行い、講師を派遣しています。同校は文部科学省のスーパーサイエンスハイスクール(SSH)に指定されています。

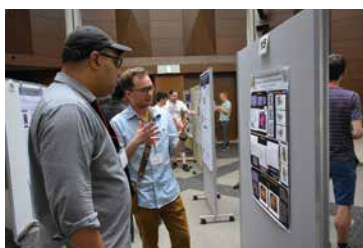
JSPS サマー・プログラム

欧米諸国の博士号取得前後の若手研究者を、本学が(独)日本学術振興会と連携し、全国の大学共同利用機関や大学等の協力のもとに、夏期2ヶ月間受入れるプログラムです。

2024年度は、95名が参加しました。

2024年度
プログラム
参加者

- アメリカ 15名
- カナダ 17名
- イギリス 15名
- フランス 17名
- ドイツ 19名
- スウェーデン 12名



2024年度オリエンテーションプログラムの様子(6月)



2024年度報告会(8月)

2024年度は次のプレスリリースを行い、各メディアにも取り上げられました。

2024.04.12

ホタルの発光メカニズムを探れ！
炭素原子X線吸収計測でルシフェリン分子の構造変化を解明

2024.04.17

光電子運動量顕微鏡を二刀流にアップグレード
物性を決定づける原子軌道の完全解析への革新

2024.05.15

古代タンパク質が明かす秘密：歯石から読み解く過去の歯周病原因子

2024.05.15

ゴキブリの性フェロモンの受容・処理機構を解明し、
求愛行動の制御機構を明らかに
—ゴキブリの駆除や管理に期待—

2024.05.17

溶媒を混ぜると高分子が溶けなくなる現象を解明
—高分子溶液の軟 X 線吸収分光計測—

2024.06.04

溶液中で孤立した水分子の観測に成功
—水分子の新たな分析手法の確立—

2024.06.05

左回り/右回りの光を選択的に発光する金ナノ粒子

2024.06.14

大規模なフュージョンエネルギー実験データ25年分をクラウド上で完全オープン
～誰でも利用可能に～

2024.06.17

エステルを還元する新規光触媒を開発
—エステルからアルコールへの光触媒多電子還元を達成—

2024.06.17

外来種の侵略が在来種の魚類・シクリッドに与えた影響をゲノムレベルで解明
—シクリッドの絶滅リスクを遺伝学的側面から評価—

2024.06.21

下水中ウイルス濃度から流域の感染者数を予測する解析アプリ
～COVIVIS (コビビス) 運用スタート～

2024.07.08

宇宙の飛躍：米国防宇宙局 (NASA) のスウィフト衛星と
人工知能が最も遠いガンマ線バーストの距離を解明

2024.07.19

水蒸気雰囲気下の非熱的水分解水素発生反応において
触媒活性が最大になる反応条件を解明！
界面における水分子数及び水素結合ネットワーク制御の
重要性を提示・実証

2024.08.29

非熱的な水・メタン分解水素生成における
反応活性電子種の正体を分光学的に特定！
～金属 一半導体複合界面場の協奏的機能解明への大きな一歩～

2024.09.02

前例のない多地点観測によって、
南極氷床内陸における広域の積雪粒径分布を明らかに
—衛星観測と気候モデルの高精度化に期待—

2024.09.02

冷却原子型・量子シミュレータで原子の「電子状態」と
「運動状態」の間の量子もつれを観測することに成功

2024.09.06

原子配列の乱れをもつフッ化物イオン導電性固体電解質の
イオン伝導メカニズムの解明
～リチウムイオン電池を凌駕する次世代蓄電池の創成を目指して～

2024.09.13

薬用植物ホソバオケラに未知の機能を持つB染色体を発見

2024.09.13

わずか30年で生じる都市化の影響：都市のエゾリス集団の遺伝構造解析

2024.09.17

水溶液中の金属錯体の電子状態と配位構造を解明する新手法を開発
—軟X線吸収分光計測による配位子側からの詳細な解析を実現—

2024.09.27

脈動オーロラの形状と宇宙から降り注ぐ
電子のエネルギーの関係を解き明かす観測に成功

2024.11.11

果実をよく食べる食肉目ジャコウネコ科の4種が
同じ場所で生息できる理由
～同じ果実を食べても動物食性の強さが異なっていた～

2024.11.18

月面利用の拡大に向けた先行的な技術の研究開発開始！
～超小型・高機能な宇宙放射線環境の計測技術と
リアルタイム被ばく線量評価システムの構築～

2024.11.20

水素イオンの流れを使ってATP合成酵素が回転する仕組みを解明！
創薬ターゲットタンパク質である ATP 合成酵素の解明によって
将来的な医薬応用への波及にも期待

2024.11.25

バンコマイシン耐性腸球菌(VRE)感染症の治療に道
—ナトリウムポンプ阻害剤の発見とその阻害機構を解明—

2024.12.13

アルマ望遠鏡が捉えた惑星系形成の現場

2024.12.20

宿主集団の不均一性は、より致死率の高い病原体の進化を促す

2024.12.24

スズを含むペロブスカイト半導体の界面構造制御法の
開発とメカニズム解明
～高性能多接合(タンデム)型太陽電池の実現～

2025.01.22

人工分子モーターの合理的な改造で
天然のモータータンパク質に匹敵する運動速度と走行距離を達成

2025.02.25

高温超伝導が生じる舞台となる「奇妙な金属状態」に光をあてる
～高温超伝導の起源の解明や量子技術への応用に期待～

2025.02.25

仲良しだから緊張する：野生ニホンザルの社会的ストレスに関する新規な現象の発見

2025.03.03

マウス顔面発生大図解：哺乳類の口先は、爬虫類の鼻孔近くの小骨から進化した

2025.03.12

光で曲がる分子が“芳香族性”を獲得する瞬間を初観測
—超高速計測で明らかにした段階的な平面化プロセス—

2025.03.14

AIを活用し化学反応の理解を自動化する仕組みを開発
—深層学習による反応機構の解明をより容易に—

2025.03.26

クレオール言語が広がる条件を理論的に解明
—新しい言語はどんな時に誕生するか—

2025.03.31

生きた細胞内で「ユークロマチン」と「ヘテロクロマチン」の
ふるまいを見分ける新技術を開発

統合進化科学研究センター

Research Center for
Integrative Evolutionary Science

「進化」を軸にした国内唯一の研究拠点

統合進化科学研究センターは、国内外に開かれた共同研究を通して、広い視野からの生物進化学の研究、および科学活動の俯瞰的研究を推進し、もって人間社会の諸問題の解決をめざす新しい研究分野としての“統合進化科学”を開拓することを目的としています。

<https://rcies.soken.ac.jp/index.html>



研究活動

- 進化を基軸にした生物学の知識体系の構築
- 進化学研究で得られた知見の他分野への応用
- 科学活動の俯瞰的研究
- 学際的知見を基盤とした社会問題解決への取り組み

その他の活動

- 大学院教育、研究者育成
- 共同研究
- アウトリーチ



統合進化科学研究センター長
印南 秀樹 教授

「統合進化科学研究センター」は、「進化」を軸にした国内唯一の研究拠点として国内外の研究機関と連携し、「統合進化科学」という新たな学術領域の創出を目指します。

総研大の本部のある葉山キャンパスでは、これまで先導科学研究科において「進化」を軸とした教育研究を行ってきました。「進化」というと、生物の進化が思い起こされますが、技術も文化も社会も、進化します。

生物38億年の歴史の中で、生き物のシステムがどのように作られ変遷していったのか、また、人間の諸活動(社会、心理、言語、文化など)がどのように変化していったのか、さらには、人新世における地球規模の諸問題がどのように進行し、どのような解決策がありえるのか、といったことも、進化という視点で俯瞰的に考えることができます。

2022年4月に葉山に設立された統合進化科学研究センターでは、上述のように「進化」という概念をとらえなおし、生物学の知識体系の発展のみならず、進化学の知見を人間理解と社会問題解決へ取り込んだ「統合進化科学」という新分野の創出を目指します。

教育企画開発センター

The Center for Education
Planning and Development

優れた研究者に求められる「高い専門性」、「広い視野」、「国際的な通用性」を兼ね備えた人材の育成が本学の目標です。そのためには各コースにおける専門教育に加えて、研究者としての素養を高めるための全学教

育も欠かせません。

本センターは、全学教育の実施・支援や、本学の教育に関する調査分析等を通して、本学が理念として掲げる研究者人材の育成に貢献します。

教育開発部門

- 【全学教育の推進】
- 【教育・研究指導の質向上】
- 【学生のニーズに即した支援】

- 全学教育科目、セミナーの企画・実施：フレッシュマンコースの実施／CEPDセミナーの企画・実施
- 全学教育事業の実施支援：大学共同利用教育の実施支援／国際共同学位プログラムの実施支援
- FD研修の企画・実施
- 教育に関する教員からの相談対応
- 学生の学習・研究活動・就職活動・ネットワーキングに関する支援

企画IR部門

- 教学データの整備・分析、学生アンケート実施等による教育効果の分析
- 論文データベース及び研究力分析ツールを利用した研究パフォーマンス分析
- SD研修の企画・実施

人材育成部門

- データ駆動型研究を推進できる「データサイエンティスト型(DS型)研究者人材」の養成

学術情報基盤センターは、本学の学術情報基盤に関する一元管理を行うことにより、学術情報の利用と発信の円滑化に必要な活動を行うとともに、情報基盤の整備充実

を進め、全学の教育研究活動等を支援することによって、最先端の教育研究の進展に寄与するため、設立されました。

情報基盤整備推進部

情報基盤整備推進部は、本学の情報環境を整備し各種情報サービスを提供するとともに、情報メディアの利用促進を支援する学内拠点施設です。本学を構成する基盤機関との連携のもと全学的な情報環境を構築するとともに、葉山本部等に設置された基幹情報ネットワークおよび情報システムの管理・運用を行っています。

【お問い合わせ】

学術情報基盤事務局情報係

TEL:046-858-1587、1588

FAX:046-858-1607

E-mail:istc.jimu@ml.soken.ac.jp

葉山本部図書館

葉山本部図書館は、本学が目指す高度な教育研究の展開と先導的学問分野の開拓に資するため、多様な学術資料の収集・整理・公開を行っています。葉山キャンパスの教員・学生は24時間利用可能となっており、各コースに共通する基本的図書および先導的・学際的研究分野に関連する専門図書・雑誌を収集・配架しており、館内設置機器による映像音響資料の利用も可能となっています。そのほか、本学が授与した博士の学位論文、本学が出版した図書、雑誌、葉山キャンパスの教員・学生が発表した学術論文等がインターネットを通じて無料で閲覧できる機関リポジトリ、本館が所蔵する図書・雑誌のOPAC(オンライン所蔵目録)なども提供しています。これらの資料、データは、本学の教員・学生が利用できるだけでなく、近隣住民など一般の方にも開放されており、研究資料の収集や学習スペースとしても有効に活用されています。また、神奈川県立図書館の窓口の機能も有しており、神奈川県立図書館が所蔵する図書の本学教職員・学生及び周辺市民への貸出しを行っています(KL-NETサービス)。更に2015年度より国立国会図書館の窓口として、国立国会図書館が所蔵するデジタル資料を閲覧できるサービスも開始しました。



図書館で利用可能な

学術情報資料数 2025.4.1現在

図 書：(和) 約22,600冊
(洋) 約24,500冊

雑 誌：(和) 約140誌
(洋) 約330誌

電子ブック：約161,700冊
電子ジャーナル：約5,050誌
機関リポジトリ：約5,640件

附属図書館

附属図書館は、大学本部に置く図書館(葉山本部図書館)と機構等法人及び基盤機関が設置する図書館及び図書室(基盤図書館等)から構成されています。附属図書館は、電子資料を収集、整理及び蓄積するとともに、葉山本部図書館及び基盤図書館等との緊密な連係及び協力の下に、学術情報利用の円滑化に必要な活動を行うことによって、本学の教育研究活動等を推進することを目的とし、全国に分散している基盤機関に所属する本学の教員及び大学院生が共通に使えるよう、電子ジャーナル及び電子ブック、世界最大級の書誌・引用文献データベースを導入し、利用に供しています。

総研大全学で利用できる 電子ジャーナル

<http://www.lib.soken.ac.jp>

BioOne / JSTOR / Science Direct / Springer-LINK / Wiley-Blackwell / GeoScienceWorld / Scopus (書誌・引用DB・情報検索サービス)

※上記以外に葉山キャンパス内向けの電子ジャーナルも提供しています。

【お問い合わせ】

学術情報基盤事務局図書係

TEL:046-858-1528、1540

FAX:046-858-1607

E-mail:lib@ml.soken.ac.jp

[本学のノーベル賞受賞者]

ノーベル物理学賞



高エネルギー加速器科学研究科 名誉教授

2008年
「CP対称性の破れの起源の発見」

小林 誠

総合研究大学院大学名誉教授
高エネルギー加速器研究機構特別名誉教授

1999年4月～2004年3月：数物科学研究科 教授
2004年4月～2006年3月：高エネルギー加速器科学研究科 教授
2003年4月～2004年3月：数物科学研究科 素粒子原子核専攻長
2004年4月～2006年3月：高エネルギー加速器科学研究科 素粒子原子核専攻長
2008年：文化勲章受章

ノーベル生理学・医学賞



生命科学研究科 名誉教授

2016年
「オートファジーの仕組みの解明」

大隅 良典

総合研究大学院大学名誉教授
基礎生物学研究所名誉教授

1996年10月～2009年3月：生命科学研究科 教授
2008年4月～2009年3月：生命科学研究科長
2006年：日本学士院賞受賞
2016年：文化勲章受章

[受賞者]

勲章・褒章

2015年以降の受賞者、職名・所属は受賞当時

氏 名	所 属	受章年・受章
瀧井 一博 教授	国際日本研究コース	2024 紫綬褒章
及川 昭文 名誉教授	先端科学研究科・生命共生体進化学専攻	2024 瑞宝中綬章
根岸 正光 名誉教授	複合科学研究科・情報学専攻	2024 瑞宝中綬章
渡部 泰明 教授	日本文学研究コース	2023 紫綬褒章
山田 作衛 名誉教授	高エネルギー加速器科学研究科・素粒子原子核専攻	2022 瑞宝中綬章
家 正則 名誉教授	数物科学研究科・天文科学専攻	2022 瑞宝重光章
蟻川 謙太郎 教授	統合進化科学研究センター	2022 紫綬褒章
長谷部 光泰 教授	生命科学研究科・基礎生物学専攻	2022 紫綬褒章
大森 賢治 教授	物理科学研究科・機能分子科学専攻	2021 紫綬褒章
小松 和彦 名誉教授	文化科学研究科・国際日本研究専攻	2020 瑞宝重光章
永嶺 謙忠 名誉教授	高エネルギー加速器科学研究科	2020 瑞宝中綬章
小平 桂一 名誉教授（元学長）	数物科学研究科・天文科学専攻	2017 瑞宝重光章
川合 眞紀 教授	物理科学研究科・機能分子科学専攻	2017 紫綬褒章
大隅 良典 名誉教授	生命科学研究科・基礎生物学専攻	2016 文化勲章
太田 朋子 名誉教授	生命科学研究科・遺伝学専攻	2016 文化勲章
末松 安晴 名誉教授	複合科学研究科・情報学専攻	2015 文化勲章

文化功労者

氏 名	所 属	受賞年・受賞分野
阿形 清和 教授	基礎生物学コース	2023 発生物学
石毛 直道 名誉教授	文化科学研究科・比較文化学専攻	2021 文化人類学
川合 眞紀 教授	物理科学研究科・機能分子科学専攻	2021 表面科学
鈴木 厚人 名誉教授	高エネルギー加速器科学研究科	2021 素粒子物理学
堀田 凱樹 名誉教授	生命科学研究科・遺伝学専攻	2020 行動遺伝学・生物物理学・神経遺伝学
猪木 武徳 名誉教授	文化科学研究科・国際日本研究専攻	2019 経済学
小松 和彦 教授	文化科学研究科・国際日本研究専攻	2016 民俗学
大隅 良典 名誉教授	生命科学研究科・基礎生物学専攻	2015 細胞生物学

日本学士院賞

氏 名	所 属	受賞年	受賞の対象となった研究業績
宮崎 聡 教授	天文科学コース	2024	重力レンズ効果を用いた宇宙論研究の開拓推進
川合 眞紀 教授	物理科学研究科・機能分子科学専攻	2020	単一分子分光を用いた固体表面上での化学反応の研究
喜連川 優 教授	複合科学研究科・情報学専攻	2020	大規模高性能データベースシステムの理論と応用に関する先駆的研究
常田 佐久 教授	物理科学研究科・天文科学専攻	2019	太陽観測衛星による太陽電磁流体現象の研究
永嶺 謙忠 名誉教授	高エネルギー加速器科学研究科・物質構造科学専攻	2019	ミュオンラジオグラフィーの開拓と大規模構造体の非破壊的研究
高崎 史彦 名誉教授	高エネルギー加速器科学研究科・素粒子原子核専攻	2017	B中間子系におけるCP対称性の破れの研究

日本学士院学術奨励賞

氏 名	所 属	受賞年	受賞の対象となった研究業績
鯉淵 道紘 准教授	複合科学研究科・情報学専攻	2020	並列計算機システムの相互結合網へのランダム性導入に関する先駆的研究
石崎 章仁 教授	物理科学研究科・構造分子科学専攻	2019	実時間量子散逸系理論の構築とその光合成初期過程解明への応用

日本学術振興会賞

氏 名	所 属	受賞年	受賞の対象となった研究業績
村山 泰斗 准教授	遺伝学コース	2024	染色体分配の正確性を保証する分子基盤の生化学的特性の解明
大槻 久 准教授	統合進化科学研究センター／統合進化科学コース	2023	ヒトの社会性の進化的起源に関する理論的研究

日本学術振興会 育志賞

氏 名	所 属	受賞年	研究テーマ
坂本 貴洋	先導科学研究科・生命共生体進化学専攻	2022	自然選択の理論集団遺伝学
飯屋園 志帆	先導科学研究科・生命共生体進化学専攻	2017	ミドリイシ属サンゴの蛍光タンパク質の遺伝子基盤と役割の解明
北村 大地	複合科学研究科・情報学専攻	2016	非負値行列因子音源モデルに基づく音楽信号の多チャネルブラインド音源分離

SOKENDAI賞

SOKENDAI賞は、本学の理念と目的に照らして、特段に顕彰するに相応しい研究活動を行い、その成果を優れた学位論文にまとめて課程を修了し、学位を取得する学生を表彰するものとして、2018年度に創設されました。

第13回 SOKENDAI 賞 受賞者一覧 授与式：2024年9月27日(金)

氏 名	所 属	学位論文題目
大和 あすか	文化科学研究科・日本歴史研究専攻	浮世絵版画に用いられた技法材料の研究
土井 聖明	物理科学研究科・天文科学専攻	ダストからのミリ波連続波放射の空間分布に基づく原始惑星系円盤の物理状態の推定
櫻井 隼	生命科学研究科・基礎生物学専攻	マウス胚の着床に伴う子宮内環境の変化

第14回 SOKENDAI 賞 受賞者一覧 授与式：2025年3月24日(月)

氏 名	所 属	学位論文題目
加納 龍一	複合科学研究科・情報学専攻	深層学習理論を用いた決定木アンサンブルの解析
中川 颯也	生命科学研究科・基礎生物学専攻	アサガオを用いた花弁発達の制御機構の解析と反復配列解析手法の開発
飯田 史織	生命科学研究科・遺伝学専攻	核内環境によるクロマチンの動きとカタチの制御

研究科長賞

研究科長賞は、研究科において特段に顕彰するに相応しい研究活動を行い、その成果を優れた学位論文にまとめて課程を修了し、学位を取得する学生を表彰するものとして、2018年度に創設されました。

2024年度前期 研究科長賞 受賞者一覧 授与式：2024年9月27日(金)

氏 名	所 属	学位論文題目
JASEELA PALASSERY ITHIKKAL	物理科学研究科・構造分子科学専攻	半導体電子状態研究に基づく水平接合有機太陽電池の物質設計
ANGELO PEREZ RILLERA	高エネルギー加速器科学研究科・物質構造科学専攻	分光法およびイメージング法を用いたセラドン軸葉の焼成過程、評価解析、呈色機構の研究
牛 源源	複合科学研究科・統計科学専攻	客観的ベイズ逆解析及び空間・時空間データ分析への応用
井上 峻	複合科学研究科・極域科学専攻	東南極ドロンイングモードランドの表層付近のフィルムにおける密度と微細構造、化学的性質の時空間変動
BISWA BHIM BAHADUR	生命科学研究科・遺伝学専攻	マウスの家畜化における腸内細菌の役割

2024年度後期 研究科長賞 受賞者一覧 授与式：2025年3月24日(月)

氏 名	所 属	学位論文題目
志川 真子	文化科学研究科・比較文化学専攻	桂六斎念佛の復活に関する民族音楽学的研究
Tirumalasetty Panduranga Mahesh	物理科学研究科・機能分子科学専攻	ピコ秒パルスレーザーによる原子のリードベリ軌道への超高速励起
彌富 豪	物理科学研究科・核融合科学専攻	多成分乱流とゾーナルフローにおけるエネルギー伝達および情報エントロピー
豊川 広晴	物理科学研究科・宇宙科学専攻	近赤外分光で観測した月の形成初期から現在にかけての水環境進化
及川 拓実	高エネルギー加速器科学研究科・素粒子原子核専攻	誤り訂正符号による Narain 共形場理論の構成と代数体の整数上の格子

[教職員数]

2025 年 5 月 1 日現在

区 分	役 員	教 授	准教授	講 師	助 教	その他	事務職員	計
学 長	1							1
理 事	2							2
監 事	2							2
副学長	(2)							(2)
先端学術院								
人類文化研究		22	17					39
国際日本研究		14	4					18
日本歴史研究		16	14					30
日本文学研究		11	6					17
日本語言語科学		10	8					18
情報学		30	17		14			61
統計科学		21	20		4			45
素粒子原子核		30	37	16	18			101
加速器科学		48	43	20	50			161
天文学		28	36	6	43			113
核融合科学		20	24		17			61
宇宙科学		22	37		15			74
分子科学		16	11		20			47
物質構造科学		25	16	3	21			65
総合地球環境学		12	7					19
極域科学		15	13		18			46
基礎生物学		14	17		26			57
生理科学		16	10		20			46
遺伝学		22	11		17			50
統合進化科学		(6)	(7)	(3)	(3)			(19)
統合進化科学研究センター		6	7	3	3			19
教育企画開発センター	(1)		2			1		3 (1)
学術情報基盤センター	(1)						(1)	(2)
事務局等							40	40
合 計	5 (4)	398 (6)	357 (7)	48 (3)	286 (3)	1	40 (1)	1135 (24)

※ () については、他部署との兼務で外数。

教職員一覧・
検索

Web サイトから教員一覧をご覧ください。

教員一覧・検索サイト

<https://www.soken.ac.jp/faculty-directory/>



〔 学生数 〕

2025 年 5 月 1 日現在

	1 年次			2 年次			3 年次 (1 年次 **)			4 年次 (2 年次 **)			5 年次 (3 年次 **)			計		
	女子	留学生		女子	留学生		女子	留学生		女子	留学生		女子	留学生		女子	留学生	
先端学術院	87	27	22	74	23	13	105	30	25	53	19	13	34	12	6	353	111	79
人類文化研究							3	3	1	2	1		4	2		9	6	1
国際日本研究							1			1	1		3	3	2	5	4	2
日本歴史研究							3	2	1	1			1	1		5	3	1
日本文学研究							1	1		1		1	2	1		4	2	1
日本語言語科学							8	1	3	4	3	1	4	2	3	16	6	7
情報学	16	5	8	7	1	2	21		5	3	2	1	5		1	52	8	17
統計科学	3						4		2	6			6	1		19	1	2
素粒子原子核	5	2	2	7	1	1	10	4	2	3		3				25	7	8
加速器科学	5	1	2	2		2	2	1					1			10	2	4
天文学	7	1	1	6	2		8	2	2	3	1	2	1			25	6	5
核融合科学	3		2	2	1		3			1		1				9	1	3
宇宙科学	5			6			5	1		6		1	1			23	1	1
分子科学	8	1		6		1	8	1	4	3	1	1	2	1		27	4	6
物質構造科学				1												1	0	0
総合地球環境学							1	1	1	6	4					7	5	1
極域科学	6	2		4	4		4	3	1	3	1		1			18	10	1
基礎生物学	7	4	1	13	5	2	9	2		4	2	1	2	1		35	14	4
生理科学	8	7	2	7	4	2	1			1	1	1				17	12	5
遺伝学	10	3	4	7	3	2	8	4	3	3	1					28	11	9
統合進化科学	4	1		6	2	1	5	4		2	1		1			18	8	1
文化科学研究科 *	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	30	16	9	30	16	9
地域文化学専攻													7	3	3	7	3	3
比較文化学専攻													6	4	1	6	4	1
国際日本研究専攻													7	5	5	7	5	5
日本歴史研究専攻													7	3		7	3	0
日本文学研究専攻													3	1		3	1	0
物理科学研究科 *	0	0	0	0	0	0	0	0	0	17	3	1	20	1	6	37	4	7
構造分子科学専攻										2	1					2	1	0
機能分子科学専攻										3						3	0	0
天文学専攻										5	1		10	1	3	15	2	3
核融合科学専攻										3		1	6		3	9	0	4
宇宙科学専攻										4	1		4			8	1	0
高エネルギー・加速器科学研究科 *	0	0	0	0	0	0	3	0	3	9	3	5	21	4	5	33	7	13
加速器科学専攻							1		1	3	2	2	3	2	1	7	4	4
物質構造科学専攻										1	1	1	1			2	1	1
素粒子原子核専攻							2		2	5		2	17	2	4	24	2	8
複合科学研究科 *	0	0	0	0	0	0	5	1	4	10	0	2	43	5	13	58	6	19
統計科学専攻													15	1		15	1	0
極域科学専攻										3			2			5	0	0
情報学専攻							5	1	4	7		2	26	4	13	38	5	19
生命科学研究科 *	0	0	0	0	0	0	4	3	3	14	6	7	21	8	10	39	17	20
遺伝学専攻							2	1	2	10	4	6	10	4	8	22	9	16
基礎生物学専攻							1	1		1			6	2	2	8	3	2
生理科学専攻							1	1	1	3	2	1	5	2		9	5	2
先端科学研究科 *	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	8	5	0	10	7	0
生命共生体進化学専攻										2	2		8	5		10	7	0
合 計	87	27	22	74	23	13	117	34	35	105	33	28	177	51	49	560	168	147

※ 女子・外国人留学生はともに内数。

* 2023 年 3 月 31 日 募集停止

** 博士後期課程の年次

[入学者数]

2025 年度（4月入学）入学者選抜実施状況

2025 年 4 月 1 日現在

先端学術院／ コース	入学定員 (募集人員)		入学者選抜実施状況				入学者		入学者の内訳							
			志願者		合格者				性 別				留学生		社会人	
	男						女									
	5 年	後期	5 年	後期	5 年	後期	5 年	後期	5 年	後期	5 年	後期	5 年	後期	5 年	後期
先端学術院	58	62	159	78	95	51	71	47	52	35	19	12	11	12	4	9
人類文化研究	/	(4)	/	10	/	4	/	3	/	0	/	3	/	1	/	1
国際日本研究	/	(3)	/	4	/	1	/	1	/	1	/	0	/	0	/	0
日本歴史研究	/	(3)	/	7	/	3	/	3	/	1	/	2	/	1	/	2
日本文学研究	/	(2)	/	6	/	1	/	1	/	0	/	1	/	0	/	0
日本語言語科学	/	(3)	/	11	/	8	/	8	/	7	/	1	/	4	/	1
情報学	(8)	(12)	20	8	14	7	13	6	9	6	4	0	7	1	0	2
統計科学	(2)	(6)	5	3	4	2	3	2	3	2	0	0	0	1	1	1
素粒子原子核	(6)	(1)	26	0	13	0	3	0	3	0	0	0	0	0	0	0
加速器科学	(2)	(1)	6	2	4	2	3	1	2	1	1	0	0	0	0	0
天文科学	(5)	(1)	22	3	7	3	6	3	5	2	1	1	0	1	0	0
核融合科学	(3)	(2)	5	1	4	1	3	1	3	1	0	0	2	0	0	0
宇宙科学	(4)	(3)	20	4	8	2	5	2	5	2	0	0	0	0	0	2
分子科学	(7)	(5)	13	3	10	3	8	3	7	3	1	0	0	1	0	0
物質構造科学	(2)	(1)	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
総合地球環境学	/	(2)	/	2	/	1	/	1	/	0	/	1	/	1	/	0
極域科学	(2)	(1)	6	2	6	2	6	2	4	1	2	1	0	0	0	0
基礎生物学	(5)	(3)	10	7	8	7	6	7	3	6	3	1	0	0	0	0
生理科学	(3)	(6)	8	0	6	0	6	0	1	0	5	0	0	0	1	0
遺伝学	(6)	(2)	8	2	6	2	6	2	5	2	1	0	2	1	0	0
総合進化科学	(3)	(1)	9	2	5	1	3	1	2	0	1	1	0	0	2	0

※ 「5年」は博士課程（5年一貫制）、「後期」は博士後期課程

2025年度 入学者状況（出身大学等）

国立大学 70 名

北海道大学	1
東北大学	8
福島大学	1
筑波大学	1
埼玉大学	2
千葉大学	1
東京大学	7
東京外国語大学	1
東京農工大学	1
東京科学大学	3
電気通信大学	1
一橋大学	1
横浜国立大学	1
富山大学	2
信州大学	1
静岡大学	3
名古屋大学	7
愛知教育大学	1
名古屋工業大学	1
豊橋技術科学大学	1
京都大学	4
京都工芸繊維大学	1
大阪大学	2
神戸大学	2
奈良教育大学	1
鳥取大学	3
島根大学	1
広島大学	2
山口大学	2
徳島大学	1
高知大学	1
九州大学	4
九州工業大学	1

公立大学 5 名

福岡女子大学	1
高知工科大学	1
尾道市立大学	1
北九州市立大学	1
滋賀県立大学	1

私立大学 28 名

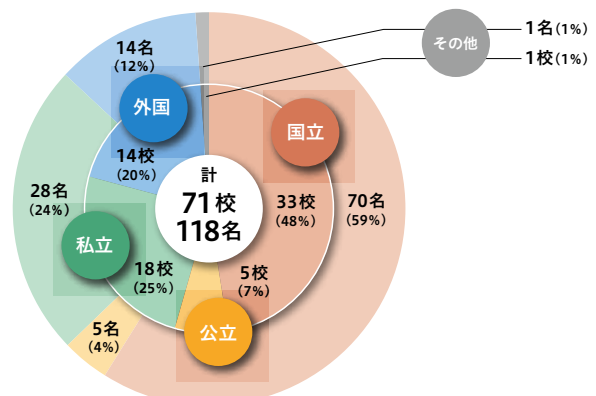
麻布大学	1
中央大学	1
同志社大学	1
法政大学	2
神奈川大学	1
近畿大学	2
北里大学	1
京都産業大学	1
明治大学	1
名城大学	2
日本大学	4
立教大学	1
立命館大学	3
上智大学	1
東京農業大学	1
東京理科大学	3
津田塾大学	1
早稲田大学	1

外国の大学 14 名

State University of Campi (ブラジル)	1
湖北中医薬大学 (中国)	1
中国海洋大学 (中国)	1
山東師範大学 (中国)	1
蘇州大学 (中国)	1
Aarhus University (デンマーク)	1
PSL University (フランス)	1
Ilmenau University of Technology (ドイツ)	1
Technical University of Munich (ドイツ)	1
中央大学校 (韓国)	1
韓国外国語大学校 (韓国)	1
The National Autonomous University of Mexico (メキシコ)	1
国立清華大学 (台湾)	1
Vietnam Japan University (ベトナム)	1

その他(高専など) 1 名

久留米工業高等専門学校 1



[博士の学位授与状況]

学位名	1991年度～2019年度 計			2020年度			2021年度			2022年度			2023年度			2024年度			計		
文 学	120	[30]	(51)	5	[2]	(2)	5	[3]	(1)	2	[1]	(2)	2		(3)	3		(1)	137	[36]	(60)
学 術	311	[29]	(69)	5	[2]	(2)	12	[1]	(1)	5	[1]		7	[2]	(2)	6	[1]		346	[36]	(74)
理 学	1348	[68]	(99)	47	[3]	(2)	33			52	[7]	(3)	50	[4]	(4)	42	[3]	(2)	1572	[85]	(110)
工 学	152	[7]	(40)	9		(1)	8		(1)	9	[1]		2		(1)	5			185	[8]	(43)
統計科学	50	[5]	(3)	4	[1]		7			9	[1]		7	[1]		5			82	[8]	(3)
情報学	173	[18]	(0)	17	[1]		16			19			12	[1]		11			248	[20]	
脳科学							1												1		
医 学	15	[2]	(0)							1	[1]								16	[3]	
合 計	2169	[159]	(262)	87	[9]	(7)	82	[4]	(3)	97	[12]	(5)	80	[8]	(10)	72	[4]	(3)	2587	[196]	(290)

※1 [] は単位取得退学後、所定の期間内に申し学位を取得した者で、内数。

※2 () は論文博士で外数。

[2024年度 進路状況]

大学・研究所等

東京大学
東京科学大学
東北大学
新潟大学
金沢大学
名古屋大学
大阪大学
京都大学
熊本大学
慶應義塾大学
明星大学
関西大学

沖縄科学技術大学院大学 (OIST)
重慶工商大学
ベトナム海事大学
ナザルバエフ大学
ケンブリッジ大学
グリニッジ大学
国立民族学博物館
国立情報学研究所 (NII)
統計数理研究所
国立天文台 (NAOJ)
核融合科学研究所
国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構 (JAXA)

国立極地研究所 (NiPR)
基礎生物学研究所 (NIBB)
国立遺伝学研究所 (NIG)
国立研究開発法人情報通信研究機構 (NICT)
国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構 (QST)
国立研究開発法人理化学研究所
独立行政法人国立文化財機構 東京文化財研究所
Helmholtz Zentrum Berlin
Max Planck Institute for Astronomy
独立行政法人日本学術振興会
文化庁

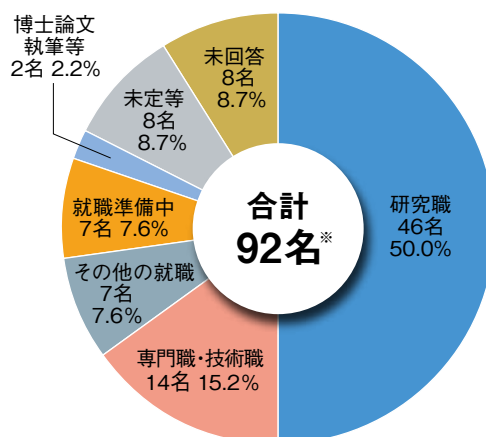
民間企業・公益法人等

株式会社クリーチャーズ
株式会社 FMIC R&D
PwC 税理士法人
有限責任 あずさ監査法人
コニカミノルタ株式会社
ユーフォーテーブル有限会社
レノボ・ジャパン合同会社

株式会社セック
株式会社ディー・エヌ・エー
株式会社ニッスイ
株式会社竹中工務店
三菱電機株式会社
三菱電機ソフトウェア株式会社
四国化成ホールディングス株式会社

総合学習塾 あまみ学び舎
太陽日酸株式会社
第一三共株式会社
東京電解株式会社
日産自動車株式会社
日本サムスン株式会社
日本電気株式会社

D
A
T
A



※92名内訳
課程を修了し学位を取得した者：68名
修了に必要な単位を取得し退学した者：24名

国際交流

2025年度外国人留学生数 コース／専攻別一覧

2025 年 5 月 1 日現在

研究科・ コース／専攻	1 年次			2 年次			3 年次(1 年次 **)			4 年次(2 年次 **)			5 年次(3 年次 **)			計			研究生		
	女子	国費		女子	国費		女子	国費		女子	国費		女子	国費		女子	国費		女子	国費	
先端学術院	22	8	10	13	4	4	25	5	3	13	4	5	6	3	0	79	24	22	8	6	2
人類文化科学							1	1								1	1	0	1		
国際日本研究													2	2		2	2	0	3	3	
日本歴史研究							1	1								1	1	0	1	1	
日本文学研究										1		1				1	0	1			
日本語言語科学							3			1			3	1		7	1	0			
情報学	8	2	3	2			5			1	1	1	1			17	3	4			
統計科学							2									2	0	0			
素粒子原子核	2	2		1	1		2			3		1				8	3	1			
加速器科学	2		2	2		2										4	0	4			
天文学	1		1				2		1	2	1	1				5	1	3	1	1	1
核融合科学	2									1		1				3	0	1			
宇宙科学										1						1	0	0			
分子科学				1			4	1		1						6	1	0			
物質構造科学																0	0	0			
総合地球環境学							1	1	1							1	1	1			
極域科学							1	1								1	1	0			
基礎生物学	1	1		2	1	1				1	1					4	3	1			
生理科学	2	2	2	2	1					1	1					5	4	2			
遺伝学	4	1	2	2	1	1	3		1							9	2	4	1	1	1
総合進化科学				1												1	0	0	1		
文化科学研究科 *	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	6	0	9	6	0	0	0	0
地域文化学専攻													3	1		3	1	0			
比較文化学専攻													1	1		1	1	0			
国際日本研究専攻													5	4		5	4	0			
日本歴史研究専攻																0	0	0			
日本文学研究専攻																0	0	0			
物理科学研究科 *	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	6	0	3	7	0	3	0	0	0
構造分子科学専攻																0	0	0			
機能分子科学専攻																0	0	0			
天文学専攻													3		2	3	0	2			
核融合科学専攻										1			3		1	4	0	1			
宇宙科学専攻																0	0	0			
高エネルギー加速器科学研究科 *	0	0	0	0	0	0	3	0	2	5	2	4	5	1	1	13	3	7	0	0	0
加速器科学専攻							1		1	2	1	2	1	1		4	2	3			
物質構造科学専攻										1	1	1				1	1	1			
素粒子原子核専攻							2		1	2		1	4		1	8	0	3			
複合科学研究科 *	0	0	0	0	0	0	4	1	3	2	0	1	13	2	2	19	3	6	0	0	0
統計科学専攻																0	0	0			
極域科学専攻																0	0	0			
情報学専攻							4	1	3	2		1	13	2	2	19	3	6			
生命科学科学研究科 *	0	0	0	0	0	0	3	2	1	7	3	5	10	4	4	20	9	10	0	0	0
遺伝学専攻							2	1	1	6	3	5	8	4	4	16	8	10			
基礎生物学専攻													2			2	0	0			
生理科学専攻							1	1		1						2	1	0			
先端科学研究科 *	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
生命共生体進化学専攻																0	0	0			
総 計	22	8	10	13	4	4	35	8	9	28	9	15	49	16	10	147	45	48	8	6	2

※ 女子・国費留学生はともに内数。

* 2023 年 3 月 31 日 募集停止

** 博士後期課程の年次

2025年度外国人留学生数 国別一覧

2025年5月1日現在

国名	1年次			2年次			3年次(1年次**)			4年次(2年次**)			5年次(3年次**)			計			研究生		
	女子	国費		女子	国費		女子	国費		女子	国費		女子	国費		女子	国費		女子	国費	
アジア	18	8	7	9	3	2	22	6	5	17	7	8	41	14	6	107	38	28	5	3	1
インド	1	1	1	1						3	3	2	3	1	2	8	5	5			
インドネシア共和国	2		2							2	1	1	1		1	5	1	4			
スリランカ							1	1					1			2	0	1			
タイ王国							1	1	1	2		2	1		1	4	0	4			
ネパール王国										1		1				1	0	1			
パキスタン・イスラム共和国	2	1	2													2	1	2			
バングラデシュ人民共和国													1	1	1	1	1	1			
ベトナム社会主義共和国	1	1		3	1	2	2	1	2	2	2	2	3	1	1	11	6	7			
マレーシア																0	0	0	1	1	1
モンゴル	1	1	1										1			2	1	1			
大韓民国	1		1	1			1	1		2			2			7	1	1			
中華人民共和国	9	3		4	2		13	3	1	5	1		24	11		55	20	1	4	2	
中華民国(台湾)	1	1					4	1					4			9	2	0			
アフリカ	0	0	0	1	0	1	2	0	1	0	0	0	1	0	0	4	0	2	0	0	0
アルジェリア							2		1							2	0	1			
エジプト				1		1										1	0	1			
ガーナ共和国													1			1	0	0			
欧州	1	0	0	1	1	0	10	2	2	8	2	5	4	1	2	24	6	9	2	2	1
アルバニア共和国							1									1	0	0			
アイルランド共和国							1		1							1	0	1			
カザフスタン共和国							1		1	2	1	2	2	1	2	5	2	5	1	1	1
ジョージア										1						1	0	0			
スペイン王国										1		1				1	0	1	1	1	
デンマーク王国	1			1	1											2	1	0			
ドイツ連邦							2	1		1		1				3	1	1			
フランス共和国							4	1		3	1	1	2			9	2	1			
ポルトガル共和国							1									1	0	0			
中東	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1	1	2	1	2	1	1	0
イラン・イスラム共和国																0	0	0	1	1	
シリア・アラブ共和国													1	1	1	1	1	1			
トルコ共和国				1		1										1	0	1			
北米・中米	2	0	2	0	0	0	1	0	1	1	0	0	1	0	1	5	0	4	0	0	0
アメリカ合衆国	1		1				1		1				1		1	3	0	3			
カナダ										1						1	0	0			
メキシコ合衆国	1		1													1	0	1			
南米	1	0	1	1	0	0	0	0	0	2	0	2	1	0	0	5	0	3	0	0	0
ブラジル	1		1							2		2				3	0	3			
ペルー共和国				1									1			2	0	0			
総計	22	8	10	13	4	4	35	8	9	28	9	15	49	16	10	147	45	48	8	6	2

※ 女子・国費留学生はともに内数。

** 博士後期課程の年次



〔 大学間交流協定 〕

本学では、大学間の学術交流を通じて、大学院における教育・研究活動のより一層の充実をはかるため、国内外の大学と学術交流協定を締結しています。

海外の大学等との交流協定

締結日	国・地域	協定機関
2005 年 5 月 25 日	韓国	科学技術総合大学院大学校
2010 年 4 月 1 日	タイ	チュラロンコン大学理学部
2011 年 3 月 29 日	タイ	カセサート大学理学部
2014 年 3 月 24 日	マレーシア	マラヤ大学理学部
2017 年 2 月 8 日	ベトナム	ベトナム国立自然科学大学生物学部
2017 年 2 月 15 日	ベトナム	ベトナム国立農業大学動物科学学部
2017 年 2 月 20 日	ベトナム	ベトナム社会科学学院考古学研究所
2017 年 12 月 28 日	台湾	国立台湾大学
2018 年 2 月 28 日	米国	ハワイ大学人文外国語カレッジ
2018 年 8 月 28 日	スロベニア	リュブリャナ大学生物技術学部
2018 年 9 月 5 日	タイ	ヴィダヤシリメディー 科学技術大学院大学
2018 年 10 月 9 日	バングラデシュ	ジャハンギルナガル大学生物科学部
2019 年 2 月 13 日	ジョージア	ジョージア技術大学
2019 年 11 月 7 日	ノルウェー	ノルウェー北極大学
2019 年 11 月 8 日	フランス	エコール・サントラル・ナント
2019 年 11 月 12 日	中国	蘭州大学
2019 年 11 月 18 日	韓国	高麗大学医学部
2020 年 2 月 28 日	フランス	バリ・サクレー大学
2020 年 5 月 20 日	中国	西南交通大学物理科学与技术学院
2020 年 7 月 17 日	ドイツ	イエナ大学固体物理学研究所
2020 年 7 月 20 日	イタリア	ボローニャ大学
2021 年 12 月 8 日	フランス	ソルボンヌ大学
2022 年 11 月 10 日	韓国	釜山大学校
2023 年 3 月 7 日	台湾	国立陽明交通大学
2023 年 6 月 8 日	イタリア	サレルノ大学
2024 年 4 月 11 日	フランス	エクス・マルセイユ大学
2024 年 9 月 3 日	台湾	天主教輔仁大学
2024 年 9 月 26 日	タイ	タクシン大学
2024 年 10 月 24 日	タイ	マハーサーラカム大学
2025 年 1 月 8 日	英国	ブラッドフォード大学
2025 年 1 月 27 日	モンゴル	モンゴル科学アカデミー大学
2025 年 2 月 5 日	フランス	ナント大学

国内の大学等との交流協定

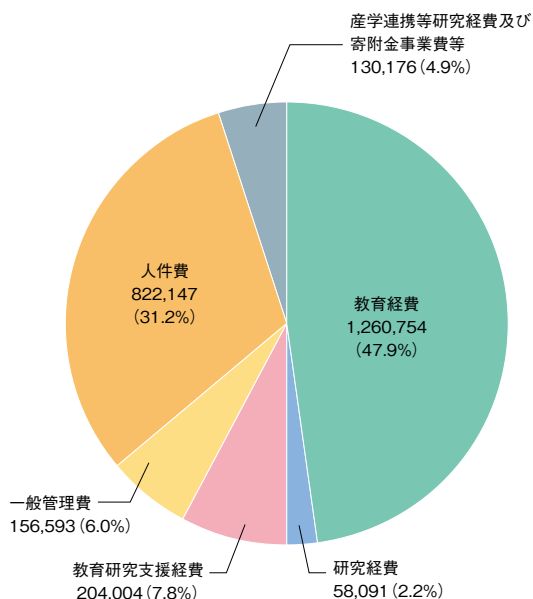
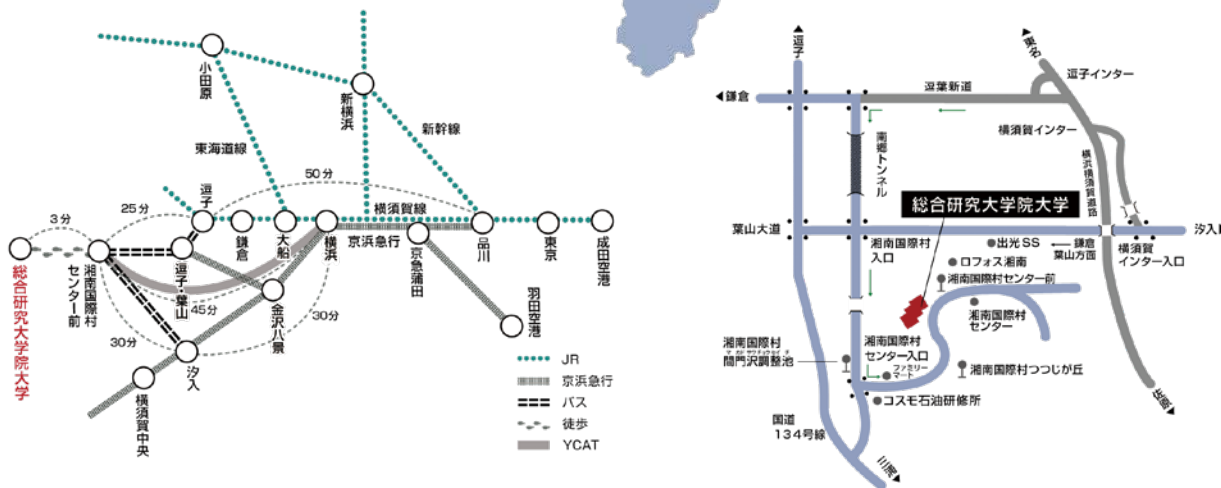
協定発効年月日	協定機関
1995 年 4 月 1 日	お茶の水女子大学 人間文化創成科学研究科
1995 年 4 月 1 日	名古屋大学 医学系研究科
1998 年 4 月 1 日	東京大学 理学系研究科
1998 年 4 月 1 日	東京大学 情報理工学系研究科
2000 年 4 月 1 日	国際基督教大学 アーツ・サイエンス研究科
2005 年 4 月 1 日	京都大学 アジア・アフリカ地域研究研究科
2005 年 4 月 1 日	大阪大学 人間科学研究科
2005 年 4 月 1 日	神戸大学 国際文化学研究科 人間発達環境学研究科
2005 年 4 月 1 日	千葉大学 人文公共学府
2009 年 4 月 1 日	北陸先端科学技術大学院大学 先端科学技術研究科
2010 年 4 月 1 日	名古屋大学 工学研究科
2010 年 4 月 1 日	千葉大学 融合理工学府
2015 年 4 月 1 日	津田塾大学 理学研究科
2017 年 4 月 1 日	九州大学 薬学府
2018 年 4 月 1 日	法政大学 理工学研究科
2019 年 6 月 1 日	大阪大学 工学研究科
2019 年 10 月 1 日	名古屋大学 理学研究科 工学研究科 生命農学研究科 創薬科学研究科
2020 年 4 月 1 日	滋賀県立大学 人間文化科学研究科
2022 年 4 月 1 日	関西学院大学 理工学研究科
2023 年 10 月 1 日	静岡大学 総合科学技術研究科 光医学研究科 自然科学系教育部
2024 年 10 月 1 日	東京科学大学 理学院、工学院、物質理工学院、情報理工学院、生命理工学院、環境・社会理工学院

神奈川県内の大学等との交流協定

協定発効年月日	協定機関				
2001年 1月10日	麻布大学	獣医学研究科 環境保健学研究科			
	神奈川大学	法学研究科 経済学研究科 経営学研究科 人文学研究科 理学研究科 工学研究科 歴史民俗資料科学研究科 人間科学研究科 (人間科学研究領域のみ)			
		神奈川工科大学	工学研究科		
		関東学院大学	文学研究科 経済学研究科 法学研究科 工学研究科 看護学研究科		
			北里大学	理学研究科 医療系研究科 看護学研究科 薬学研究科 獣医学系研究科 海洋生命科学研究科 感染制御科学府	
				湘南工科大学	工学研究科
				専修大学	経済学研究科 法学研究科 文学研究科 経営学研究科 商学研究科
		鶴見大学			文学研究科 法学研究科
	桐蔭横浜大学	工学研究科 スポーツ科学研究科			
		東海大学			文学研究科 政治学研究科 経済学研究科 法学研究科 芸術学研究科 体育学研究科 理学研究科 工学研究科 海洋学研究科 健康学研究科 人間環境学研究科
	日本大学		生物資源科学研究科 獣医学研究科		
	東京工芸大学		工学研究科		
	横浜市立大学		医学研究科 都市社会文化研究科 生命ナノシステム科学研究科 生命医科学研究科		
			2002年3月20日 横浜国立大学	理工学府 環境情報学府 教育学研究科 国際社会科学府 都市イノベーション学府	
				2002年4月 1日 東京科学大学	生命理工学院 人文科学研究科 国際交流研究科 音楽研究科
	2004年4月 1日		フェリス女学院大学	農学研究科	
	2005年4月 1日	明治大学	情報セキュリティ大学院大学 情報セキュリティ研究科		
	2007年4月 1日	情報セキュリティ大学院大学	環境情報学研究科		
	2009年4月 1日	松蔭大学	経営管理研究科 栄養科学研究科 社会起業研究科		
	2021年4月 1日	相模女子大学	理工学研究科		
	2010年4月 1日	青山学院大学	情報学研究科		
	2013年4月 1日	文教大学	歯学研究科		
	2014年4月 1日	神奈川歯科大学	児童学研究科 医学研究科		
	2015年4月 1日	鎌倉女子大学	保健医療学研究科		
	2016年4月 1日	聖マリアンナ医科大学	美術研究科		
		昭和医科大学	人間学研究科		
	2018年4月 1日	女子美術大学	看護学研究科		
	2019年4月 1日	田園調布学園大学			
	2019年4月 1日	横浜創英大学			

(単位：千円)

■支出予算総額 2,631,765

[illegible]

総研大基金

総研大基金は、本学で学ぶ学生の支援等を目的に設立されました。



総合研究大学院大学基金について

<https://www.soken.ac.jp/donation/>



総研大ニューズレター

本学で行っている教育研究活動を発信する、総研大ニューズレターを刊行しています。各キャンパスで行われているイベント情報の紹介や報告、プレスリリースされた研究成果、受賞等の情報を掲載し、本学ウェブサイトで公開しています。



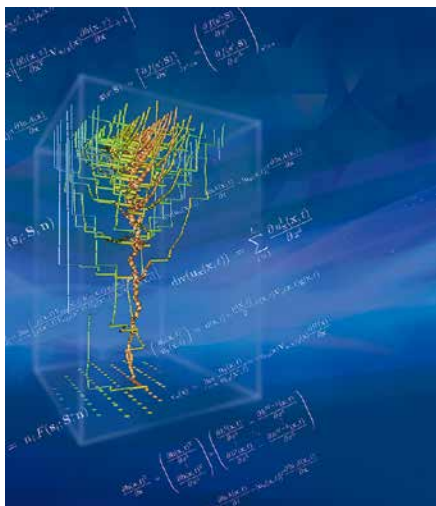
総研大ニューズレター

<https://www.soken.ac.jp/outline/pr/publicity/newsletter/>



〔ロゴ〕

本学は2018年の創立30周年を機に、ブランドロゴを制定しました。異なるアルファベットを接続するブランドロゴは、SOKENDAIが日本や世界の研究所をつなぐ教育機関であるという構造を表現しています。アルファベットのひとつひとつは研究所やそこで学ぶ人材の高い専門性や個性を表現し、文字をつないでいます。この上昇していくライン“Intelligence Connector”は広い視野と世界に開かれた自由な精神を象徴しています。



画像は下記より改変して制作：

Hiroshi C. Ito and Akira Sasaki. "The adaptation front equation explains innovation-driven taxonomic turnovers and living fossilization." (<https://doi.org/10.1086/727046>)
CC BY-NC 4.0

〔表紙画像〕

ダーウィン・ダーリントン流
(古生物学的な時空間スケールの生物の流れ) の
シミュレーションにおける生存系統の軌跡

生物の進化史において、革新的な新しい系統の出現は、生物にとって好ましい環境(低地、浅海、低緯度地域など)において多く繰り返されてきた。それらの新しい系統は放散しながら厳しい環境(高地、深海、高緯度地域など)にも侵入・適応し、先住の古い系統を駆逐していった。この傾向を見出したダーウィンやダーリントンなどの自然史学者たちは「好ましい環境から厳しい環境へと向かう生物の流れが存在する」と考えた。この流れを数式で記述すると、最も厳しい環境では流れが極端に遅くなり、とても古い系統が駆逐されずに存続して「生きた化石」となる(図中の青色の枝に対応)。たしかに現実の「生きた化石」たちも厳しい環境に生息することが多い。図の高さ方向は時間を示し、奥行き方向は標高または水深、左右方向は緯度(低緯度:橙色、高緯度:青色)などに対応する。

〒240-0193

神奈川県三浦郡葉山町 湘南国際村

www.soken.ac.jp

S O K E N D A I

2025 - 2026

$$\frac{\partial h(\mathbf{x}, t)}{\partial t} = \frac{\mu(\mathbf{x}, t) \sigma_h(\mathbf{x}, t)^2}{2} \bar{n}(\mathbf{x}, t) \left[\frac{\partial h(\mathbf{x}, t)}{\partial \mathbf{x}^T} \right]$$

$$\frac{\partial h(\mathbf{x}, \tau)}{\partial \tau} = v h$$

$$D(\mathbf{x}) = \text{div}(\mathbf{v}_{\mathbf{x}}(\mathbf{x})) - [\mathbf{v}_{\mathbf{x}}(\mathbf{x}) \cdot \nabla \mathbf{x}]$$

$$\frac{dn_i}{dt} = n_i \Gamma$$

$$v_{hy}(\mathbf{x}) = \lim_{t \rightarrow \infty} \frac{u_{hy}(\mathbf{x})}{u_{hy}(\mathbf{x})}$$

$$\frac{dn_i}{dt}$$